

令和元年度

事業報告（案）

社会福祉法人相楽福社会

# 目次

令和元年度 事業報告（案）

相楽福祉会全体	1
総務部	5
健康管理部	9
相楽地域障害者生活支援センター	1 5
相楽作業所	2 1
相楽デイセンター	2 9
わーく相楽	
精華地域活動センター「心」	3 9
（クリエイティブスペース）ていすと	4 5
エコ・クリーン相楽	5 0
サービスセンター相楽	5 6
グループホーム	
サポートセンター「樹葉」	6 0

社会福祉法人相楽福祉会  
令和元年度事業報告（案）

はじめに

無認可共同作業所開設（1979）以来当法人は、利用者の困り事（＝地域ニーズ）への対応に事業能力限界を越えた福祉資源を先行投入して来たが、一方でその事が人的&財政的疲弊を生みその結果過重労働や虐待等のサービス水準の重大質的低下を招いてしまった事は何度も厳しく指摘を受けてきた。創設者急逝という混乱と悲痛の中で発足した法人新体制経営陣は、当時危機的状态にあった財政や事業体制を受け継ぎ「継続可能で健全な事業経営」を目指してサービス受給調整や事業内容の整理統合改革に励んで来た。が、近年における高齢化重度化時代状況の急峻な変化（高齢化対応やGH増設ニーズ等）に十分な対応が遅れた結果、事業経営改革成果でU字回復が見えつつもL字状態に留まりかねない膠着的現況に陥っている。

法人にとって現況とは福祉新時代の「黒船到来的」状況であるとの指摘がある。例え通所施設が母体であるとしても、高齢&重度化時代の24時間・365日の暮らしを守るには①通所施設機能（日中活動支援）は勿論②GH機能（夜間支援）の完備（＝専従スタッフ・支援スタッフ急募、相応しい利用者住環境整備、支援母体施設の財務強化、その他関係する団体個人の支援&協力の輪等）が必須な時代である。にもかかわらず、人的・財務的体力限界からGH増設停止状況にあった当法人サービス体系は、当然ユーザー視点からは選ばれず、利用者大幅減という事業経営上重大な結果を招く事になった。

しかしながら視点を変え、この事態が事業継続リスクではなくチャンスである（orに変えて行く）と考え、言い換えれば財政や職員待遇には厳しくとも規定方針である適切事業規模を守り再び過重労働環境の轍は踏まぬよう、真摯にニーズに向き合った信頼されるサービス提供体質に当法人を変革して行く事に成功すれば、今日の危機的難題打開への道は開かれるだろう。創設時代の志を今一度思い起こし、質の高いサービス提供こそ利用者増を生み支援者の自負自信を深め結果財務体質強化へと続く好循環を育てて行くのではないだろうか。質向上とは個々人に問われている昨日を越えるイノベーションである。何か？①正確な観察によるニーズ分析②分析に基づく信頼のおける最適サービス提供③モニタリングを介した地道で誠実なPDCA改善等がこれまでと同様大筋の基本であろう。一つの例えばである、利用者減がネガティブ減収イメージなら他方でポジティブ解釈も可能だ。もし職員配置工夫等に「ゆとり」生む事が出来るならばそれもチャンスの一つである、それは単なる安心安全管理を超え真のニーズを見いだして最適支援の提供を実現させる「気づき」のための大事な条件となるであろう。日常支援の地道な定点（条件）観測は昨日との微少な差異を見落とす事は無いだろう、このケース5W1H的差異分析と因果理由の発見こそ最適支援内容創造の母、又、親和的チームによるオープンな多視点分析が（クローズで隠蔽的な単独分析に勝るのは言うまでも無いし、）正解に辿り着く時間を短縮するだろう。

最後になったが、既述の通りGH増設停止状況には厳しいご批判とお叱りを受けているが、心より反省しお詫び申し上げ適宜な時期を得て丁寧な経過説明&質疑応答機会を設けねばねばならないと思っている。

## I 運営指針

- 1 管理職及び各職員の役割を明確にするとともに、計画及び報告を確実にを行い、評価を加えることで、組織的運営を図っていく。
  - ・作業所及びデイセンターにおいて職員へのヒアリングを行い、職員の課題と役割の明確化を行った。わーく相楽においてシステム化までには至っていないが「エコクリーン」と「ていすと」2つのグループにおいてお互いが事務作業やマンパワー面での効率的運営を行う気風が生まれた。
  - ・今後も組織原則を堅持し、事業所間での連携による業務の効率化を目指したい。
  
- 2 地域のニーズにこたえるため、通所施設での新規利用者の受け入れを行う。
  - ・見学及び実習を行い、年度当初に支援学校新卒者を含め2名の利用者の受け入れを行った。
  - ・今年度は新規事業所の参入により9名の通所利用者が退所となった。そのため急きょ年度途中に4名の利用者の受け入れを行った。他県から精力的に参入する事業もあり困難性はあるものの、今後も財政面を鑑み継続して新規利用者の受け入れは重要な課題である。サービス内容の見直しを進めるとともに、精神疾患の方や中途障害の方の通所が増加していることもあり、障害特性に合わせた支援についての理解を深める研修が急務となっている。
  
- 3 高齢化する利用者の安心安全のため、設備面の改善を進める。また、本人の状況に合わせて介護保険事業等の利用を継続的に行う。
  - ・今年度は長期入院者も数名おられ、定期訪問など医療との連携を積極的に行った。
  - ・作業所においては高齢者を中心とした班を継続して設け、利用者同士の交錯もほとんどなく転倒することはなく安全な空間を保てた。介護保険事業所との並行通所は継続しているが、情報交換に関しては不十分であり、今後の課題である。
  
- 4 家族の高齢化等による暮らしの場の課題に対して、グループホームや居宅支援において、他事業所の資源の活用をすすめていく。
  - ・今年度新規事業所の参入により、他事業所のグループホームの利用につながった。利用者にとって選択肢は増えたが、同時に通所利用も9名減ることになり、当法人の運営は厳しいものとなった。支援センターを通じて新規利用者受け入れと法人内のグループホームの空き部屋へ3名の入居者を迎え入れた。今後、運営を円滑にするために利用者拡大を進めると共に新規事業展開を検討していくことが急務である。
  
- 5 職員の処遇改善を行い、計画的にマンパワーの確保を行っていく。また、人権に配慮した適切な支援を行うために、人権研修及び障害の理解をさらに深める研修を継続して行う。
  - ・職員及びパートに対して10月より特定処遇加算を行い、経験年数と資格の

評価をした。そのことで資格取得と働く意欲向上につながったと考えられる。  
・年間計画に基づき研修を行い、報告の提出は確実に行ったが、報告会等の共有する機会が持てなかった。

## II 事業計画に基づく評価

### 1 組織的運営

- ・理事長、副理事長を含めた運営会議において方針を明確にし、管理職会議及び職員会議で職員の意見をくみ取りながら、方針の具体化を図るスタイルで組織的運営を進めた。作業所及びデイセンターで職員のヒアリング等を行い、各職員の役割を明確にしていった。
- ・各事業所での情報交換にSNS等も活用することで、タイムリーな情報共有ができ、事業所間での温度差が少なくするよう努めた。
- ・人材確保には難航し、新卒者の見学や面接の数も減り採用には至らなかった。福祉施設経験者を含め年度途中の採用で補充した。今後もインターンシップなど早い段階からの人材確保が求められる。

### 2 通所施設における新規受け入れ

- ・今年度、新規事業所の参入もあり、「わーく相楽」において、地域の中途障害者や精神疾患のある方の受け入れをすすめた。これまで以上に「働く場」としての位置づけが明確になり、作業の中身の検討を早急に進める必要が出てきている。
- ・相楽作業所及びデイセンター相楽においても支援学校卒業後の通所場所として、希望者2名の受け入れを行い、活性化につながったと思われる。

### 3 利用者の高齢化に対応していく

- ・利用者の健康維持のため、利用者個々の必要に応じてバイタルチェックを行い、可能な限り通院支援を継続して行った。
- ・介護保険事業所の並行通所、グループホームを中心に訪問看護など他事業所の資源を積極的に進めた。
- ・本人に合った椅子や増加するシルバーカーを利用しやすい環境整備した。

### 4 暮らしの場での支援の充実を図る

- ・暮らしの場としてのグループホームにおいて、空き部屋を必要に応じて新規の利用者を3名受け入れることを進め、家族の安心と暮らしを支える場の提供を行った。
- ・新規参入の事業所に9名の方がグループホームへの入居となり、地域で支える資源が拡大した。しかしながら法人運営が厳しい状況も生まれ、今後、法人としても生活を支えるグループホーム等について検討を始める必要性が出てきた。
- ・他事業所の協力も得て移動支援等の活用を進め、豊かな生活を維持させた。また、暮らしを守る手立てとして成年後見制度や社会福祉協議会が行うサービス利用援助事業の利用やそれに向けた相談を進めた。

## 5 人材確保と職員育成

- ・大学3年生を対象にしたインターンシップを行い、4月・5月に4年生向けの見学・説明会を行ったが、新卒者の採用にはつながらなかった。一方、夜間支援スタッフについては労働条件を充実させたことで、特に女性のサポートに必要な人材確保ができた。今後男性職員の確保が課題になっている。
- ・きょうと福祉人材育成認証制度の認証を取得のため、第三者評価を受診し職員自身が事業所を見直す良い機会となった。
- ・人権及び障害の理解の研修を計画的に行い、レポート提出を行うことで理解を深めていった。
- ・特にグループホーム担当職員が外部研修に積極的に参加をすすめ、管理職員が他施設の見学により、法人を見直す機会となった。
- ・資格取得推進のため特別処遇改善の実施を10月から始め、資格取得への意欲を高めた。

### <新任研修>

- ・法人の歴史、支援の基本、障害者福祉施策 3日間  
(中途採用者とパート採用のため2回の実施)

### <法人研修>

- ・「権利条約」及び「差別解消法」 龍谷大学 樽井康彦 氏  
6月5日(水) 作業所
- ・「発達障害のある人への支援」～支援の組み立て～ 自閉症eサービス 前野篤史 氏  
7月24日(水) 作業所

### <医療研修>

- ・感染症について (ノロ・インフルエンザ) 看護師  
11月に2回実施 作業所 デイセンターで実施
- ・手洗い 実地研修 (利用者も含む) 看護師  
11月～12月 各事業所で実施

社会福祉法人相楽福祉会  
令和元年度 総務部事業報告（案）

継続した運営基盤を構築するための財政安定化を掲げ、以下の事業を実施した。

## <計画に即した評価>

### 1 継続的運営のための財政安定化

- ・新規利用者の受け入れを前年度同様行い、収支バランスを考慮した経営戦略を展開するよう努める。また円滑に事業展開できるよう、運営と財政のバックアップを担っていく。
- ・各施設の運営と財政状況について所属長と連絡を密に取りながら予算執行状況を常にチェックし、事業計画に基づいた財務の運営ができるよう努めていく。
- ・積立金について出来る限りの資産留保に努め、修繕や人件費等積立金の積立ができるようより一層努力する。

新規事業所の参入による通所利用者の減少により、財政的には大変厳しいものとなった。財政の安定化のため新規利用者の受け入れは重要な課題であり、昨年度通所施設において合計6名の新規利用者を受け入れた。今後も継続的に受け入れを行っていく。

予算執行については、事業計画や各事業所の状況を鑑みながら実施していた。通所利用者の減少の影響は大きく、当期活動増減差額は5,402千円の赤字計上（昨年度は24,520千円の黒字）となった。

昨年度、親の会から修繕を目的とした寄付金をいただき、修繕費積立として50,449千円を計上した。今後の施設大規模修繕などに役立てていきたい。

### 2 財政状況の認識強化

- ・四半期ごとに管理職会議において財政状況を報告確認し、財政状況の認識を強化していく。

3か月ごとの四半期決算を作成し、運営会議、管理職会議にて報告を行った。相楽作業所や相楽デイセンターなどの20年以上経過した建物について、今後も財政状況を見ながら計画的に修繕を進められるように努める。

### 3 障害者総合福祉法の動向等への対応

- ・ 10月に予定されている障害福祉人材に対する新たな処遇改善について、動向をチェックして迅速な対応を行い、円滑な事務処理を行う。

特定処遇改善加算を令和元年10月より算定して、職員の処遇改善に務めた。今後も介護給付費などの動向をチェックして迅速に対応していきたい。

### 4 理事会・評議員会の開催

令和元年度は、別添1のとおり理事会5回、評議員会2回を開催。事業報告、決算報告、事業計画、予算等各種審議を実施した。

### 5 平成30年度決算書の作成

平成30年度収支結果に基づき、社会福祉法人会計基準に基づく決算書資料を作成。各種財務諸表、添付資料を作成した。

<別添1>

令和元年度 理事会・評議員会の開催状況

○理事会

	開催日時	場所	議案内容	出席理事	出席監事
第1回	5月15日	精華町地域福祉センターかしのき苑 A会議室	第1号議案 平成30年度事業報告(案)について 第2号議案 平成30年度決算報告(案)について 第3号議案 監事監査報告について 第4号議案 任期満了に伴う新役員候補者の推薦について 第5号議案 修繕積立金積立について 第6号議案 相楽デイセンター空調設備入札について 第7号議案 相楽デイセンター工事に伴う入札業者選定委員会の設置について 第8号議案 給与規程の改定について 第9号議案 定時評議員会における議案内容について	6名	1名
第2回	5月29日	サービスセンター相楽	第1号議案 理事長および業務執行理事の選任について	4名	0名
第3回	7月10日	サービスセンター相楽	第1号議案 評議員候補者の推薦について 第2号議案 収益事業の開設について 第3号議案 臨時評議員会における議案内容について 第4号議案 評議員選任・解任委員会の招集について	6名	2名

	開催日時	場所	議案内容	出席 理事	出席 監事
第 4 回	8月27日	精華町地域福祉 センターかしの き苑 E会議室	第1号議案 経理規程の改定について 第2号議案 就業規則の改定について 第3号議案 給与規程の改定について 第4号議案 令和元年度補正予算(案) について	6名	1名
第 5 回	3月24日	(書面による同 意の意思表示)	第1号議案 令和元年度補正予算(案) について 第2号議案 令和2年度事業計画(案) について 第3号議案 令和2年度予算(案)につ いて 第4号議案 給与規程の改定について	6名	0名

○評議員会

	開催日時	場所	議案内容	出席 評議員
定 時	5月29日	精華町福祉センタ ーかしのき苑 D 会議室	第1号議案 理事・監事の選任同意に ついて 第2号議案 平成30年度事業報告 (案)について 第3号議案 平成30年度決算(案) について 第4号議案 監事監査報告について	4名
臨 時	7月30日	精華町福祉センタ ーかしのき苑 A, B会議室	第1号議案 収益事業の開設に伴う定 款変更について	5名

社会福祉法人相楽福祉会  
令和元年度健康管理部事業報告（案）

令和元年度は前年度に続き、利用者健診や事業所支援全般に配慮が行き届いた年度となった。ただし、利用者の高齢化による個別の支援が増えて来たため、日々の体調把握を中心に業務を行った。今後も可能な限り医療・健康面の支援を継続して行きたい。昨年度から、今までの通院記録のデータ保存を始めたが、個人情報の管理に問題が見られたため、マニュアルを作成しデータ化を進めた。

また、職員に向けての医療研修については、看護師による感染症予防研修（手洗い実技を含む）を実施した。

<計画に即した評価>

1 基本方針

（１）通所事業所の給食を円滑に運営して行けるように努める。

給食委託先に食中毒三原則（手洗い・加熱・保冷）を厳守するよう要望した。また、利用者の嗜好を考慮した献立（管理栄養士作成）で安全な食材を使用した給食を提供するように努めた。

【実施内容】

給食提供日数／2箇所…①相楽作業所年間 239 日 ②相楽デイセンター年間 239 日

給食提供食数 ①相楽作業所 13,958 食（一日平均 58 食—心含む）

②相楽デイセンター 10,486 食（一日平均 44 食）

給食 1 食を令和元年 10 月～580 円（職員・一般）で、利用者は食材費 350 円負担で提供した。

（２）利用者・職員の医療を含む健康全般に配慮し、健康で過ごせるよう支援する。

看護師 2 名体制で連携を取りながら、日々の利用者の体調を把握する事ができた。

また、健診等の利用者支援について看護職を中心に実施する事ができた。

2 事業内容

（１）給食関係

① 利用者・職員の意見を聞きながら栄養バランスのとれた献立になるよう努める。また、個別対応食も含めて適量配膳かつ標準体重に近づけることを目標として、残食の少ない給食にする。

美味しい給食となるよう利用者の直接の意見を聞き、献立作成をした。日々の検食日誌を委託先にも閲覧してもらいながら、給食会議で利用者・職員の意見を検討した。

一人一人の栄養摂取目標量が違うので、健康も考慮した配膳になるように努めた。

② 毎月、納品食材の確認を行ない、委託会社と連携して、安全な食材を使用した美味しい給食を提供する。また、地元産の旬の食材(特産品を含む)を一部給食に取り入れて行く。

地元産の食材(特産品を含む)を、行事食や一部の給食に取り入れた。数量不足の場合や、価格面で地元産が高すぎる場合は、他の国産野菜・果物を購入した。

③ 衛生面では、食中毒を起こさないように充分注意する。

衛生面では、食中毒や感染症を拡大させないように次の点に留意した。

○アルコール手指消毒器や薬剤のスプレーによる消毒を実施した。

○調理実習・お菓子作りについては、メニューを管理栄養士と打合せした上で、マニュアルに従って実施してもらった。

○手洗い場など施設内全般の消毒を実施した。また、手洗い用自動ディスペンサー（泡状石けん）を継続して使用し、衛生全般に留意した。

## (2) 医療・保健関係

### ① 利用者の健康診断等の実施

- ・利用者健康診断を全員年1回実施する。
- ・歯科健診の実施・歯科衛生指導の実施  
(京都府の事業として、決定された場合は実施する。)
- ・血圧・体重測定の実施

○利用者の健康診断は、協力医療機関である精華町国保病院で9月に実施、また、精華町在住で40歳以上利用者22名の方々には、特定健診・がん検診を推奨し受診して頂いた。(木津川市のグループホームの方々には、グループホーム職員中心で対応した。)

そのため、内容も充実し、費用面でも安く実施できた。【資料：表1】

○歯科健診と歯科指導（フォロー健診）については、令和元年度も京都府の特別の配慮により、実施された。相楽作業所・心の利用者を中心に受診した。【資料：表2】

○利用者の健康管理を目的とした体重（血圧）測定を実施した。【資料：表3】

車椅子用体重計を使用し、車椅子の利用者の方々も、およそ月1回継続して測定できた。

## ②職員の健康診断の実施

- ・職員の年1回の健康診断と、深夜勤務従事者は年2回の健康診断を実施する。

○職員は年1回の健康診断を必須としている。精華町国保病院か協会けんぽの指定病院のどちらかで受診した。なお、女性の乳がん・子宮がん検診を協会けんぽの指定する年度に（2年に1回）実施とした。【資料：表4】

○職員の深夜勤務従事者健診を実施した。（年2回・その内、協会けんぽ健診を受診した人は1回に含めている。）【資料：表4】

○職員の健康診断結果のフォローとして、看護師から要医療・要精密検査の人には通院を促し、その経過を記録に取るようにした。

## ③検温や体調を把握して感染症の予防に努める。感染症発生時は早期に対処し、感染拡大を防ぐよう努める。

- ・感染症予防のための事業所内の消毒。
- ・各種ワクチン接種の実施

○年間を通してノロウイルス・インフルエンザを始めとする感染症全般の対策として、アルコールと消毒薬（ジェスパ）を併用した。（トイレ・食堂手洗い場他）

また、冬期はノロウイルス（感染性胃腸炎）の流行を防止するため、12月から翌3月まで塩素系薬剤を追加使用し、トイレ掃除等で消毒を実施した。

○利用者の日々の体調管理の実施（体調不良時には早めに気づき、支援するようにした。）

○感染症予防対策としてB肝ワクチン接種やインフルエンザワクチン接種を希望する職員に実施した。なお、インフルエンザワクチン接種については、精華町国保病院の医師に来てもらった為、利用者と職員が同時に接種する事ができた。

・・・【資料：表5】【資料：表6】

## ④職員に向けて、健康・医療の情報を定期的に出して行く。

○回数は少なかったが、職員からの質問に答えたい時や、医療部が職員へ周知したい事（健康・医療面・衛生面他の情報）をプリントにして配布したり、回覧を実施した。

⑤その他（職員研修の実施について）

○全職員対象として、看護師が感染症についての研修を、相楽作業所と相楽デイセンターの2カ所に分けて実施した。また、手洗いチェッカーを使用して正しい手洗い方法を体験してもらった。 【資料：表7】

<資料>

【表1：利用者健康診断】※がん検診も含む

実施日	対象者	場所	人数	内容
令和元年 5月24・28・ 29・30日 6月5・7日 (6日間)	特定健診※①・がん 検診に該当する利 用者(精華町の40 歳以上の希望する 利用者)	精華町役場 (精華町)	精華町 22人	・特定健診※①(問診・身 体計測・検尿・血圧測定・ 血液検査・心電図・診察) ・がん検診(肺がん・大腸 がん・前立腺がん検診)
令和元年 9月 25・27日	精華町の利用者 (40歳以上の女 性で2年に1回)	学研奈良乳腺 クリニック	精華町 3人	乳がん検診(マンモグラフ ィー) ※視触診なし
令和元年 8月20日・ 9月9日	木津川市の利用者 (40歳以上の女 性)	田辺中央病院 健診センター	木津川市 4人	子宮がん検診 (グループホーム支援)
令和元年 9月 3・5・10・ 12日	上記特定健診※① を受けた人以外の 利用者(がん検診済 みの人は胸部X線 検査以外を受診)	精華町 国保病院	72人 (別に欠席 者及び通院 中の利用者 5人)	血圧測定、身体測定、血液 検査、尿検査、胸部X線検 査、心電図検査(35歳以 上)、内科診察
令和元年9月 5・12日	乳がん検診 女性 全員対象で希望者	精華町 国保病院	20人	内科検診時に外科医師によ る触診を実施
令和元年 8月20・27 日・9月10日	木津川市の利用者 (40歳以上)	田辺中央病院 健診センター	6人	乳がん検診 (触診・マンモグラフィー) (グループホーム支援)

【表 2：歯科健診と歯科指導の実施】※相楽作業所で実施

日程	内容	実施人数	実施主体
令和元年 10月16日	相楽作業所・心・エコ クリーン相楽・ていす との利用者歯科健診	【作・26人】【心6人】 【エコ・クリーン2人】 【ていすと9人】	【健診】山城歯科医師会 2名と京都府歯科医師会 歯科衛生士2名
令和2年 1月21日	同上の方々の歯磨き 指導（歯科衛生士）	【作・27人】【心5人】 【エコ・クリーン7人】 【ていすと12人】	【歯科指導】京都府歯科 医師会歯科衛生士2名

【表 3：体重測定（血圧測定等）の実施状況】

項目	対象者	実施回数	人数
体重測定	全利用者	年間11回 作業所・デイセンター ※健診時は省略	全員／他各事業所ごとに 測定した
体重測定 血圧測定	健診で体重・血圧の経過 観察が必要と思われる 利用者	週1回	対象の利用者 12名

【表 4：職員健診実施状況】※週30時間以上勤務の職員対象

実施日	対象者	場所	人数	内容
令和元年 9月 3・5・ 10・12日	協会けん ぽに該当 しない職 員	精 華 町 国保病院	16人	血圧測定、血液検査、尿検査、胸部X線 検査、心電図検査(35歳以上)、内科診 察
年間を通し て予約	協会けん ぽ健診で 該当する 職員	指定病院 から選択	54人	基本健診（問診・身体計測・検尿・血圧 測定・血液検査・心電図・レントゲン・ 視力・聴力・腹囲測定・診察）⇒※② 便 潜血検査、胃がん検診 乳がん検診（触診・マンモグラフィー） 40歳以上の女性全員（2年に1回） 子宮がん健診…20歳以上の女性（2年に 1回）

実施日	対象者	場所	人数	内容
9月・翌3月	深夜勤務 従事者健 診	精華町国 保病院	14人 13人	前記の※②と同じで、深夜勤務従事者は年2回実施（協会けんぽ健診を受診する人は1回に含む）9月健診時と翌3月に実施
不定期	深夜勤務 従事者健 診	精華町国 保病院	10月 1人 11月 3人 12月 1人	上記以外で2回実施

【表5：B肝ワクチン接種の実施状況】

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成31年 4月～翌 令和2年 1月に 実施	希望 する 職員	精華町 国保病 院	右の1のみ 51人 2から5まで通し て9人（年間） 抗体検査 令和2 年1月 9人	1. B肝抗体検査3月 2. ワクチン接種1回目、5月 3. ワクチン接種2回目、6月 4. ワクチン接種3回目、令和元年12月 5. 抗体検査、令和2年1月 6. 次年度の希望調査実施2/12～29 7. 次年度のB肝抗体検査希望57人 （57人中8人は、3月の深夜業従事者検 診で実施）

【表6：インフルエンザワクチンの接種】

実施日	対象者	場所	人数	内容
令和元年 11月5日 11月19日	希望する利用者 と職員	相楽作業所 相楽デイセンター	利用者 59人 職員 47人	精華町国保病院の医師が施設 に出張してのインフルエンザ ワクチン接種（1回接種）

【表7：職員研修】

実施日	対象者	場所	内容
令和元年11月1日	職員	相楽デイセンター	感染症予防と手洗いについて 講師；看護師
令和元年11月12日	職員	相楽作業所	同上

社会福祉法人相楽福祉会  
令和元年度相楽地域障害者生活支援センター事業報告

〈計画に即した評価〉

1. 基本方針

- (1) 障害のある方の地域における日常生活、地域生活を支援する。
- (2) 相談者の状況や障害特性に応じた適切な情報提供、サービス調整を行えるよう関係機関との連携を図る。
- (3) 多岐にわたる相談内容に対応できるよう、相談支援専門員としての資質向上と専門性を高める。

精華町から相談支援事業の委託を受け、精華町在住障害児者への相談対応を行った。

特定相談支援事業、障害児相談支援事業において、サービス等利用計画の作成・モニタリング業務を行った。

京都府相談支援体制整備事業の補助を受け、圏域内の連携を図るとともに山城南圏域障害者自立支援協議会の運営を行った。

2 事業内容

(1) 精華町障害者相談支援事業の実施（精華町委託事業）

① 相談支援事業の実施

- ・地域生活に関する相談への対応、サービス利用の調整を行う。
- ・精華町障害者虐待防止センター機能のうち、通報受理および相談等の受付対応を行う。

平成31年度、令和元年度相談件数・内容別紙（相談件数としては精華町外も含む）

相談者数は障害児・者合計で537人となっている。

相談方法として多いのは、電話859件、関係機関401件、来所362件となっている。

相談内容として多いのは「障害病状理解」789件、「福祉サービス利用について」728件、「健康・医療について」163件となっている。

② 精華町地域障害者自立支援協議会の運営

- ・協議会全体の活動および専門部会の活動が円滑に進むよう、事務局機能を担う

精華町地域障害者自立支援協議会活動状況  
全体会

開催日	内容	参加人数
7月16日	部会活動について 精華町障害者基本計画等について 意見交換	13名

① 専門部会

部会名	内容	開催回数
住民参加部会	精華町防災訓練について。 近隣事業所福祉サービス事業所見学	5回 (6回目は 新型肺炎 感染防止 のため中 止)
権利擁護部会	権利擁護(成年後見など)に関する検討 (事業所見学予定だったが新型肺炎感染防止のため中止)	5回(6回 目は新型 肺炎感染 防止のため中止)
発達支援部会	研修会について検討・打合せ	1回

② 研修会の開催

開催日時	内容	参加者数
1月26日 むくのきセンター	「子どもとゲーム・ネット・スマホ依存子どもの心 のお医者さんから聞く上手なつきあい方」 講師吉川徹 愛知県医療療育総合センター中央病院子どものこころ科 あいち発達障害者支援センター副センター長	78名

③障害支援区分認定調査の実施

- ・精華町からの委託により、精華町在住者の認定調査を実施する。

令和元年度件数1件

## (2) 計画相談支援事業・障害児相談支援事業の実施

- ① 個々に応じたサービス調整を行い、サービス等利用計画の作成を行う。
- ② モニタリングにおいて、サービス利用が円滑に進んでいるか、サービス内容は適切か、変更の必要性がないかなど確認を行う。平成30年度の計画作成対象者は384件となっている。モニタリング頻度については行政と相談していく。
- ③ 計画作成件数の増大に対応できていない状況を改善するため、他事業所への協力を検討していく。

### ① サービス等利用計画作成件数について

- ・ 特定相談支援事業による障害者のサービス等利用計画作成件数 213件  
継続障害者利用支援（モニタリング）58件
  - ・ 障害児相談支援事業による障害児のサービス等利用計画作成件数 84件  
継続障害児利用支援（モニタリング）6件
- 合計 361件

② 令和元年度のサービス等利用計画作成対象者は406人いたが、すべてに対応できない状況になっている。モニタリングについては、ほぼ対応できない状況となっている。

③ 転居等で計画作成対象者が数人減るなどはあったが、指定特定及び指定障害児相談支援事業所の数は増えておらず、現状維持となった。

## (3) 京都府障害者相談支援ネットワーク事業における総合相談支援体制整備事業の実施（山城南保健所委託事業）

- ① ゼネラルケアマネジャー(専門相談員)を配置し、山城南圏域内の相談支援機関、事業所等への指導・助言を行う。
- ② 困難ケースなどの個別支援会議の開催を支援する。
- ③ 山城南保健所と連携をとり、山城南圏域障害者自立支援協議会の運営を行う。
- ④ 市町村地域自立支援協議会の活動について、協力・助言を行う。

### 山城南圏域障害者自立支援協会活動状況

#### 全体会

開催日	内容	参加者数
3月11日	新型コロナウイルス感染防止のため中止	

## 専門部会

部会名	内容	開催回数
就労支援部会	圏域内の就労支援状況について 障害のある方の働く場のつどい 障がい者が働く場の見学会	部会 2 回 見学会 1 回
発達支援部会	ペアレントトレーニングの普及・啓発に ついて 中高生支援について 支援者研修会	部会 4 回 研修会 2 回 (3 回目開催予定 だったが新型肺炎 感染防止のため延 期)
医療的ケア部会	研修会の開催等について検討 地域支援体制、役割分担等について確認	部会 1 回 研修会 2 回 (3 回開催予定だ ったが新型肺炎感 染防止のため中 止)
地域生活支援部 会	地域生活支援拠点事業について協議・検 討	部会 1 回 意見交換会等 5 回

## 3. その他

計画相談の対応に追われ、丁寧な相談対応ができなくなっている現状がある。京都府から受託している事業を継続受託するのかなど、業務内容について見直しをしていく。

令和元年度をもって総合相談支援体制整備事業の委託を終了。山城南圏域内のいづみ福祉会に引継ぎ。

### <その他>

事故・苦情 1 件

相談者から京都府運営適正化委員会に「相談対応」に関する苦情。苦情内容について運営適正化委員会から支援センターに聞き取り、相談者に報告され終了。

### <資料>

会議等への参加

日程	会議名	会場	参加
6/1	地域生活支援拠点整備について考える研修会	京田辺市立社会福祉センター	3
7/4	南山城支援学校前期進路相談	南山城支援学校	3
9/9、17 10/1	精神障害者の障害特性及びこれに応じた支援技法等に関する研修会	京都府精神保健福祉総合センター	1
9/12	南山城支援学校進路学習会	南山城支援学校	1
11/26	南山城支援学校後期進路相談	南山城支援学校	3
11/25、 12/20	せいか絆ネットワーク研修会	精華町役場	2
1/25	絆ネット構築支援事業 絆ネットワーク会議	けいはんなプラザ	1
2/14	南山城支援学校高等部3年生保護者進路説明会	南山城支援学校	1
2/27	京都府総合相談支援体制整備事業会議	京都府庁	1

相楽地域障害者生活支援センター 令和元年度相談件数

年齢・障害別(実人数)

<18歳未満>

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病等	その他	合計
男性	4	0	45	0	43	0	1	5	98
女性	0	0	23	1	22	0	0	2	48
合計	4	0	68	1	65	0	1	7	146

<18歳以上>

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病等	その他	合計
男性	39	3	109	63	26	9	5	0	254
女性	25	5	81	45	12	1	1	3	173
合計	64	8	190	108	38	10	6	3	427

市町村別相談方法(延人数)

<18歳未満>

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会	関係機関	文書	FAX	その他	合計
奈良市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蓮田市	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
精華町	26	112	44	200	4	27	99	0	0	5	517
木津川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南山城村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	29	112	44	201	4	27	99	0	0	5	521

<18歳以上>

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会	関係機関	文書	FAX	その他	合計
奈良市	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
蓮田市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精華町	222	217	109	574	6	35	295	2	1	6	1467
木津川市	43	32	20	84	1	1	5	0	0	3	189
南山城村	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	4
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	268	250	129	658	7	36	302	2	1	9	1662

相談内容(延人数)

<18歳未満>

	福祉サービ	障害病状理	健康・医療	不安・情緒	保育・教育	家族・人間	家計・経済	生活技術	就労支援	社会参加	権利擁護	その他	合計
奈良市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蓮田市	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
精華町	272	197	4	5	13	2	2	5	0	2	2	13	517
木津川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南山城村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	276	197	4	5	13	2	2	5	0	2	2	13	521

<18歳以上>

	福祉サービ	障害病状理	健康・医療	不安・情緒	保育・教育	家族・人間	家計・経済	生活技術	就労支援	社会参加	権利擁護	その他	合計
奈良市	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
蓮田市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精華町	399	570	150	67	6	24	47	109	36	5	24	35	1472
木津川市	50	18	9	14	0	20	11	44	2	2	17	2	189
南山城村	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	452	591	159	81	6	44	58	153	38	7	41	37	1667

社会福法人相楽福祉会  
令和元年度相楽作業所事業報告（案）

支援計画に基づき個々に合った「働く」場の提供を行うと共に、余暇活動や絵画・書道等の文化的活動や3B体操や散歩など健康維持のプログラムの提供も行った。また、個別に聞き取りを行い、クラブ活動や旅行を実施した。

作業所では高齢化も進んでおり、高齢者対応のグループを編成し、介護保険事業所との並行通所を行うと共に、ゆったりとした作業活動の場を設定し安心・安全面の確保につなげた。

今年度も支援学校卒業生の受け入れを行い、施設に少しずつ年齢の若い利用者も加わり、活性化につながったと思われる。今後も可能な部分で受け入れを継続していきたい。

設備に関しては、台風に備えて倉庫部分の屋根の増設や修繕、厨房内の修繕と休憩室改善など、細かな部分ではあるが安心・安全を充実させることができた。

<計画に即した評価>

1 基本方針

(1) アセスメントを丁寧に行い個々の支援計画を作成するとともに、他機関との連携を深めながら日中支援を行う。

年度末に利用者家族から聞き取った内容に基づき、今年度の担当者とサービス管理責任者が中心に個別支援計画を作成した。支援計画に基づき職員間で情報共有し支援を行った。10月に中間評価を行い、年度末には1年間の評価を実施し来年度の計画に活かしていく流れで、継続的な支援を行った。また、事業所内部だけではなく、相談支援センターやグループホーム、介護保険事業所の福祉機関のみならず、医療や教育機関とも連携を行った。

(2) 利用者の高齢化にともない、医療と介護保険事業所との連携を密にし、安心安全な環境を整えるとともに、引き続き利用者の状況に合わせたグループ編成を進める。

今年度も引き続き高齢の方々の作業班を設け、介護保険事業所との並行通所も行い、更に医療機関との連携を行うことで、安心安全な環境を提供した。個別に外出や散歩なども行ったが、体を動かす機会は少なく今後の課題と思われる。

(3) 可能な範囲で地域及び支援学校卒業生等新規の利用者を受け入れる。

今年度も新規1名の支援学校卒業生の受け入れを行った。次年度の受け入れの予定はないが、支援学校からの見学依頼はあり、今後に向けて年齢の若い利用者に向けた作業やプログラム内容の充実も重要な課題になると考えられる。

## 2 事業内容

- (1) 障害特性と利用者の希望を加味し、6つの班編成を行う。生産活動を中心に、個々の年齢や体力の状況に配慮して「生活介護」の事業を実施する。
- ・他機関や他資源（介護保険事業所、移動支援事業、サービス利用援助事業、成年後見）を利用する方も増え始め、意識的に連携を行っていく。
  - ・作業内容については、生活の質を高める媒体として位置づけ、新たに野菜作りや新規下請け作業も取り入れていく。
  - ・今年度も新規利用者の聞き取りを丁寧に行い、支援学校からスムーズに移行していただけるよう支援する。
  - ・販売、納品、資材購入など社会との接点も大切に取り組む。

利用者からご希望を聞かせていただいて、年齢や特性を考慮して、6つの作業班に分かれて「生活介護」の事業を実施した。個々に合わせて介護保険事業所や医療との連携を密にし、必要に応じてホームヘルプや移動支援等の事業も取り入れ、生活の質の向上にも配慮した。少しずつではあるが、サービス利用援助事業、成年後見制度の利用も進めた。

新たな作業としてドライフラワーやデニム生地を使った小物の作成も始め、施設玄関に展示することで、一部ではあるが利用者の意欲を高める事にもつながった。

定期の納品や製品開発のための見学も行って、社会との接点を持ち「働く」意欲を高めることにつながったと思われる。

- (2) 社会参加や楽しみにつながるプログラムの提供を行う
- ・継続して3B体操、絵画や書道など作業以外の楽しみの場を提供する。
  - ・日帰り旅行を小グループで実施する。
  - ・希望に応じて、クラブ活動や余暇活動の場を設け、経験の幅を広げる。

3B体操は少人数での実施に切り替え、利用者間トラブルは減少しのびのびと実施できた。絵画においては「とっておき芸術祭」や京都障害者文化芸術推進機構の協力により展示会（「可能性アートプロジェクト in 長楽寺 2019」）の参加もした。

日帰り旅行は7カ所に分かれ少人数で出かけ、希望に応じて月1回のクラブ活動や余暇活動も行い、経験を広げることにつながった。

- (3) 個別支援計画に基づき支援を行う
- ・本人のニーズに基づき支援計画を作成し、日中活動の班でケース会議を行い、年度の中間で見直しをする。
  - ・支援内容の蓄積のため、個々の引継ぎ票（支援マニュアル）の修正を行う。

個別支援計画に基づく支援とモニタリングは確実に行ったが、個々の支援について掘り下げるケース会議の機会が少なく、今後の課題である。

- (4) 職員間の情報共有、連絡、連携を確実に行う。
- ・職員会議や朝のミーティングで意識的に意見交換し、情報共有を行う。
  - ・研修への積極的参加、研修報告による共有を行う。

比較的人数の集まる朝のミーティングで意識的に情報伝達を行い、月1回の職員会議での意見交流を行ったが、タイムリーに対応できず細かい情報が全体に共有できないこともあった。ミーティングや会議だけでなく業務内での日常的な情報伝達を大切にする必要性を改めて感じた。

- (5) 安心・安全で快適な環境を整備していく。
- ・利用者の変化によって不具合が出てきている個所は迅速に修繕をする。
  - ・建物本体だけでなく、台風等で破損した屋外倉庫等の改修を行う。

修繕が必要な個所については即座に対応することを心がけ、倉庫の屋根の修繕も実施した。

大規模修繕を計画的に進める必要がある。

## <資料>

### 1 利用者の状況 (令和2年3月31日現在)

#### 1) 利用者数

相楽作業所 35名 (男24名・女11名)

#### 2) その他 (令和2年3月31日現在)

- ・平均年齢 約47.9歳
- ・平均在籍年数 約23年4カ月
- ・平均障害支援区分 5.2

### 2 活動内容 (令和元年度実績)

#### 1) 作業グループ構成

( )内はスタッフ数

陶芸A	陶芸B	EM	創作	箱	デイサービス
5名(4)	5名(4)	7名(2)	5名(5)	10名(5)	3名(3)

#### 2) クラブ活動

各クラブは12月までにほぼ月1回平日に実施した。

カラオケ		観光・散歩		調理			映画	ボウリング
①班	②班	①班	②班	①班	②班	③班		
3名	4名	3名	2名	4名	4名	3名	4名	4名

### 3) 旅行

今年度は日帰り旅行を計画・実施した。

ひらかたパーク	コカ・コーラ 工場見学	外食 (お寿司)	古都奈良・ 食べ歩き	京都水族館
2名 (2)	1名 (2)	1名 (1)	3名 (3)	2名 (2)

宇治観光	月ヶ瀬温泉
2名 (2)	2名 (2)

### 4) 行事等

日 程	行事名・内容	参加利用者 数 ( ) 内は スタッフ数	備 考
4/1 (月)	新年度挨拶	利用者全員	食堂にて実施
4/11 (木)	開所年記念写真展示	利用者全員	食堂にて実施
5/20 (月)	ツアーオブジャパン見学	希望者	作業所 前
5/24 (金)	精華町がん検診	1名	精華町役場
5/28 (火)	精華町特定検診	2名	精華町役場
5/30 (木)	精華町特定検診	2名	精華町役場
6/2 (日)	精華町ふれあいまつり	3名 (3)	かしのき苑
6/7 (金)	精華町特定検診	1名	精華町役場
8/5 (月)	法泉寺販売物品搬出	5名 (3)	法泉寺
9/5 (木)	利用者検診 (女性)	11名	精華病院
9/10 (火)	利用者検診 (男性)	17名	精華病院
9/13 (金)	日帰り旅行	2名 (2)	ひらかたパーク
10/1 (火)	日帰り旅行	1名 (1)	外食 (寿司)
10/4 (金)	日帰り旅行	3名 (3)	奈良観光
10/10 (木)	日帰り旅行	1名 (2)	コーラ工場見学
10/16 (水)	歯科健診	26名	食堂にて実施
10/27 (日)	ふれあいのつどい	14名 (14)	むくのきセンター
11/5 (火)	施設見学 (作業内容)	3名 (1)	D プロジェクト
11/5 (火)	インフルエンザ予防接種	23名 (18)	作業所内
11/15 (金)	日帰り旅行	2名 (2)	宇治観光
11/17 (日)	せいかまつり(販売)	希望者	けいはんな公園
11/21~23	浄瑠璃寺(販売)	8名 (5)	浄瑠璃寺
11/22 (金)	日帰り旅行	2名 (2)	月ヶ瀬温泉

日 程	行事名・内容	参加利用者 数（ ）内は スタッフ数	備 考
12/7 (土)	久御山イオン販売	職員のみ	久御山イオン
12/8 (日)	きらりさわやかフェスタ	職員のみ	加茂文化センター
12/28 (土)	土曜日開所	25名	作業所内
1/17 (金)	新年会	全員	作業所内
1/21 (火)	歯科指導	26名	作業所内
1/31 (金)	骨密度健診	1名	精華町役場
3/7~8	南稲八妻自治会作品展	職員のみ	南稲八妻自治会館
3/27 (金)	避難訓練	全員	作業所内
3/31 (火)	お別れ会	全員	作業所内

#### 5) その他

調理、お菓子作り、散歩、カラオケ、各班で実施

絵画（毎週水曜日）、書道（第2火曜日の午前）、医療マッサージ（週1  
回木曜日の午後）3B体操－希望者が参加

#### 3 研修・出張（主だったもの）

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
4/4 (木)	ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1名
4/12 (金)	町自立支援協議会	精華町役場	1名
4/23 (火)	町平和祭典監査	精華町役場	1名
4/23 (火)	町庁舎販売についての会議	精華町役場	1名
4/24 (水)	町ふれあいコンサート実行委員会	精華町役場	1名
5/9 (木)	利用者カンファレンス	精華病院	2名
5/10 (金)	町ふれあいまつり実行委員会	精華町役場	1名
5/10 (金)	町功労者選考委員会	かしのき苑	1名
5/17 (金)	知福協研修委員会	福社会館	1名
5/23 (木)	町ふれあいまつり実行委員会	精華町役場	1名
5/27 (月)	町人権啓発委員会幹事会	精華町役場	1名
6/5 (水)	法人研修（差別解消法）	作業所	11名
6/7 (金)	行者まつり販売	浄瑠璃寺	2名
6/14 (金)	京都府集団指導	京都テルサ	1名
6/19 (水)	町自立支援協議会（権利擁護部会）	精華町役場	1名
6/21 (金)	特定給食施設従事者講習会	山城南保健所	1名

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
6/25 (火)	町平和祭典実行委員会	精華町役場	1名
〃	キラリさわやかフェスタ会議	木津川市役所	1名
6/27 (木)	町成年後見センター設置勉強会	精華町役場	1名
6/28 (金)	町人権啓発委員会総会	精華町役場	1名
7/2 (火)	施設見学	いこま福祉会	1名
7/10 (水)	強度行動障害支援者養成研修	京都テルサ	1名
7/16 (火)	自立支援協議会 (権利擁護部会)	精華町役場	1名
7/17 (水)	ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1名
7/18 (木)	ふれあいコンサート実行委員会	精華町役場	1名
7/23 (火)	木津福祉職員面接会説明会	加茂文化センター	1名
7/24 (水)	ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	6名
〃	法人研修 (発達障害)	作業所	6名
7/30 (火)	新任研修	ていすと	1名
8/4 (日)	ふれあいコンサート要員	けいはんなプラザ	1名
8/20 (火)	ふれあいのつどい実行委員会	かしのき苑	1名
8/29 (木)	バリアフリー基本構想協議会	精華町役場	1名
8/31 (土)	木津福祉職員面接会	加茂文化センター	2名
9/13 (金)	自立支援協議会 (権利擁護部会)	精華町役場	1名
10/1 (火)	人権啓発推進委員会	精華町役場	1名
10/2~4	強度行動障害支援者養成研修	京都テルサ	1名
10/3 (木)	安全運転管理者講習会	アスピア山城	1名
10/11 (金)	ふれあいのつどい実行委員会	かしのき苑	1名
10/16 (水)	せいかまつり実行委員会	精華町商工会	1名
11/5 (火)	施設見学	Dプロジェクト	1名
11/8 (金)	町人権啓発研修	精華町役場	1名
11/12 (火)	法人研修 (感染症)	作業所	全員
11/13 (水)	瑞宝太鼓見学	みつば幼稚園	1名
11/15 (金)	精華町就職フェア	精華町	1名
11/22 (金)	自立支援協議会	精華町	1名
12/3 (火)	サビ管更新研修	京都テルサ	1名
12/8 (日)	グローバルネットワーク会議	精華町役場	1名
12/14 (月)	他施設行事参加	タイムワークサポート	1名
12/23 (月)	ふれあいのつどい実行委員会	かしのき苑	1名
1/14 (火)	避難関係者会議	精華町役場	1名
1/18 (土)	栄養士研修	京都テルサ	1名

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
1/20 (月)	バリアフリー基本構想	精華町役場	1名
1/25 (土)	絆ネットワーク会議	けいはんなプラザ	1名
1/26 (日)	自立支援協議会(講演会)	むくのきセンター	1名
2/4 (火)	知福協 研修委員会	京都福社会館	1名
2/5 (水)	自立支援協議会(権利擁護部会)	精華町役場	1名
2/18 (火)	人権啓発推進委員会	精華町役場	1名
2/24 (月)	木村要さん感謝のつどい	けいはんなプラザ	1名
3/9 (月)	利用者カンファレンス	竜間リハビリセンター	1名
3/16 (月)	地域福祉活動計画推進委員会	精華町役場	1名

#### 4 見学・実習

##### ① 見学・来訪 (合計 142 件)

行政関係 . . . . . 13 件	施設 . . . . . 11 件
学校関係 . . . . . 26 件	企業 . . . . . 21 件
親の会関係 . . . . . 6 件	地域団体 . . . 12 件
施設見学 (個人) 25 件	その他 . . . . . 28 件

##### ② 実習 (合計 17 人)

介護等体験 3 名	社会福祉士 2 名	介護実習 3 名
中学生体験 3 名	高校生体験 3 名	インターンシップ 3 名

#### 5 所内事故・苦情

内 容		件 数	
事 故 等 苦 情	情報伝達ミス	利用者から通院の依頼があったにもかかわらず、作業所もグループホームも双方が自分にところが行くものと思っていなかったため、通院が抜けてしまう。後日予約し通院を行うこととなる。	1 件
	車両事故	公用車で納品の際、斜面のふくらみに気が付かず、底を擦る。	1 件
	金銭管理	工賃日に買い物をした際、おつり (480 円・70 円) を鍵のかからない連絡帳入れの箱に入れたまま、事務所内に翌日まで放置してしまった。	1 件

## 6 その他

日 程	内 容	備 考
5/8 (水)	法人監事監査 (事業)	杉山監事
5/10 (金)	法人監事監査 (会計)	平松監事
5/15 (水)	法人理事会	かしのき苑
5/16 (木)	1階厨房耐火ガラス交換	1階食堂
5/23 (木)	相楽親の会総会	かしのき苑
5/29 (水)	評議委員会	かしのき苑
7/6 (土)	電気キュービクル点検	日本テクノ
9/7 (土)	ワックスがけ	フジハラ美装
9/10 (火)	1階厨房耐火ガラス交換	キール (株)
11/20 (水)	避難訓練	所内
12/28 (土)	浄瑠璃寺餅つき	所内 1階
1/20 (月)	新車両 (ハイゼット) リース開始	住友三井オートサービス
3/27 (金)	避難訓練	所内
3/22 (日)	貯水槽清掃	オリックスファシリティーズ

社会福祉法人相楽福祉会  
令和元年度相楽デイセンター事業報告（案）

今年度は年度途中で他事業所に5名の利用者が異動のため退所した。それに伴う面接や引継ぎ等で時間を調整した。また退所に伴い職員1名が法人内他事業所へ異動となった。利用者減に伴って収入も減少するため新利用者の受け入れも模索したが、車いすの利用者を優先するため年度内の新規利用は無かった。支援学校と連携し新利用者の受け入れを進めていく必要がある。

施設の改修工事は外壁や屋根、LED工事を行った。また4年に分けて行ってきたエアコン工事も今年度で終了した。エレベータや湯沸し器の老朽化に伴う工事や、利用者がより使いやすい機器の整備も続けていきたい。

「感染対策」も例年通り1～3月の検温や発熱時の対応等を行った。年度末からは新型コロナウイルスへの対応も余儀なくされ、新年度に入っても検温は継続している。

事故等は、総数は減少したが怪我が増加した。誤嚥や骨折等も発生し、より年齢や体力に考慮した安全確保が必要である。

また手術による入院や、家族の怪我や体調不良での短期入所利用（2週間～2か月）もあった。家族の高齢化に伴い今後も出てくる事案である。

苦情も少し減少した。上記の事を継続しながら、安全にそして信頼関係を継続できるよう支援を行っていきたい。

## <計画に即した評価>

### 1 基本方針

(1) 一人ひとりのニーズに基づき個別支援計画を作成し、日中活動支援を行う。

アセスメントや利用者、家族への聞き取りを行い、年度初めと年度後半に個別支援計画を策定した。今年度は面談を実施しなかった。

(2) プログラムの充実に努め、安心・安全な支援の向上を目指す。

今年度も生産活動以外の楽しみのプログラム（調理・外出・旅行・クラブ等）を実施した。またヒヤリハットなどの事故防止に努めたが、怪我等もありより一層の注意が必要である。

(3) 可能な範囲で地域及び支援学校卒業生等新規の利用者を受け入れる。

他事業所への異動が5名という事を踏まえ、新規利用者の受け入れも検討したが、新規利用は無かった。ただ支援学校からは見学等の依頼もあり卒業生も含め実習等の機会を作り、新規利用につなげていきたい。

## 2 事業内容

### (1) 指定障害福祉サービス「生活介護」を運営する

- ・個別支援計画に基づき、加齢や安全に配慮したプログラムを実施する。
- ・「工賃」変更に伴い、利用者に合った生産活動の見直しを進めていく。

個別支援計画に基づきプログラムを実施した。

クラブは数年内容が変わっていないので、利用者に聞き取りを行ったが、職員からの提示も検討しても良いと感じた。旅行は実施の最低人数を3名以上とし、体調不良等で参加者が欠席しても行先を変更することなく行えた。体力的に難しい利用者や通所されていない利用者に対しては配慮が必要と感じた。

今年度も怪我や、発熱、てんかん発作など体調の変化も見られた。特に骨折するという事態も発生し、より安全に配慮していかなければならない。

「工賃」に関しては新たに改定を行い、パン班手当も始めたが特に混乱もなく実施できた。

### (2) 支援の質の向上

- ・「人権」を尊重した支援を行う。
- ・利用者や家族の心身の変化に対応し、丁寧な説明の基に支援を行う。
- ・常に自身の支援を検証するために、相互指摘できる体制を継続する。
- ・日々の情報共有を行い、各種会議を必要に応じ開催する。
- ・介助方法や業務内容を定期的に見直し職員間で共有し、新規採用の際にも速やかに引き継げるようにする。
- ・法人内部および外部研修を活用し、資質の向上に努める。

デイセンター会議は原則月1回実施した(10月は実施せず)。反省会や職員会議等でも支援の内容を話し合う事を行ったが、利用者への呼称など改善が見られない部分もあった。継続して話合っていく必要がある。介助方法については一部の利用者の入浴方法などマニュアル作りを行った。

研修は法人内外の研修に参加した。(法人内研修3回に33名、3号研修に1名、介護職員初任者研修に2名、他外部の9研修に合計14名)現場配置により昨年度と同数の研修参加にとどまった。

### (3) 安心安全の確保

- ・「安心・安全の確保」については最重要課題として継続する。
- ・「服薬」や「運転」に関して事故防止を継続する。
- ・インフルエンザ等の感染症に対して、予防の徹底と感染拡大を防ぎ、健康管理に努める。
- ・インフルエンザ等の感染症に対して、予防の徹底と感染拡大を防ぎ、健康管理に努める。
- ・年2回の防災訓練を継続し、必要な防災用具等の充実も計画する。
- ・安全な運転業務を目指し、技術やマナー向上を行う。

事故数は昨年に比べて総数では減少したが、項目（車両事故や怪我、個人情報）では増加したものもあった。また今年度は怪我で骨折等もあった、年齢と共に体力も落ちていくことも踏まえ、一層安全確認を進めていきたい。

インフルエンザ等「感染」予防は、12月～3月の間1日2回の検温を実施した。今年度も昨年と同様に検温アベレージを基に、健康管理を行った。利用者のインフルエンザ感染は無かった。一方、新型コロナウイルスの為、一部行事(日帰り旅行)が中止に追い込まれた。

防災訓練は2回実施した。階段を利用した車いすの利用者の避難も回数を重ねることによりスムーズに行えるようになってきた。またあえて移動の手間が増える時間帯（絵画の曜日）にも行った。

#### (4) 事業所機能の充実

- ・設備等の改修を計画的に実施する。
- ・改修工事を順次行う。今年度は屋根や外壁の改修工事を計画する。
- ・職務軽減、業務の効率化を継続して検討、実施する。
- ・他事業所、行政、関係機関と連携し業務を行う。

エアコンの改修工事（食堂）は今年度で完了した。LED工事も実施した。施設の老朽化に対して屋根と外壁の改修工事を行った。LEDや備品の老朽化に伴う改装等行っていきたい。

平成28年度に続いて職員のヒアリングを行った。各自の意見を聞き、それぞれの思い等も認識でき意義があった。

#### <資料>

##### 1 利用者の状況（令和2年3月31日現在）

- ・利用者数：37名（男20名、女17名）
- ・平均年齢：約41.5歳
- ・平均在籍年数：約21年4か月
- ・平均障害支援区分：5.0

##### 2 活動内容

###### (1) 作業グループ

例年同様の構成で活動した。生産活動グループは、前年度比で売り上げは増加し、収益額でも増加した。

パン・喫茶	紙漉	織	花工芸	デイサービス
9名(6)	8名(4)	6名(3)	9名(3)	5名(5)

( )内はスタッフ数

## (2) クラブ活動

各クラブ平日に実施。費用は事業所負担とした。

年度途中他事業所への異動があり、担当職員等の変更を行った。

クラブ名	カラオケ			プール・温泉
	1 A	1 B	2	
利用者数	5名	6名	3名	4名
スタッフ数	2名	3名	2名	4名

クラブ名	運動外出		調理	室内 プログラム
	A	B		
利用者数	3名	4名	3名	3名
スタッフ数	4名	4名	2名	4名

## (3) 旅行

今年度は日帰り6グループと、宿泊1グループを実施した。宿泊は後半グループを実施した。USJは利用者の体調不良で延期したが、コロナウイルスの為実施できなかった。

日帰り

旅行名	太陽の塔・ エキスポシティ		京都市動物園		琵琶湖 ミシガン	海遊館	USJ (中止)
	A	B	A	B			
参加者数	3名	3名	2名	3名	3名	3名	(2名)

宿泊

旅行名	USJ・大阪
参加者数	4名

残り2グループは来年度の予定

## (4) 行事等

日程	行事名・内容	参加利用者数 ( )は スタッフ数	場 所
4 / 6 (土)	木津川市桜まつり	26名 (16)	木津川市 中央体育館
4 / 29 (月)	GW開所行事	24名 (20)	木津川市 中央体育館
5 / 31 (金)	班外出 (紙漉)	7名 (5)	京都水族館
6 / 19 (水)	オムロン交流会	27名 (17) オムロン社員 20名	相楽デイ センター

日 程	行事名・内容	参加利用者数 ( )は スタッフ数	場 所
6 / 26 (水)	木津川台保育所七夕交流会	32名 (19) 園児 22名 職員 3名	デイセンター
6 / 28 (金)	班外出 (花工芸)	9名 (5)	京都鉄道博物館
7 / 25 (木)・ 8 / 22 (木)	班外食 (パン) 2Gに 分かれて実施	10名 (5)	外食
9 / 13 (金)	日帰り旅行	3名 (3)	太陽の塔A
9 / 27 (金)	班外出 (デイサービス)	5名 (5)	ミ・ナーラ
10 / 4 (金)	日帰り旅行	2名 (3)	京都市動物園A
10 / 18 (金)	日帰り旅行	3名 (3)	太陽の塔B
10 / 21 (月)	日帰り旅行	3名 (3)	ミシガンクルーズ
10 / 24 (木) ~ 25 (金)	宿泊旅行	4名 (4)	USJ・大阪
11 / 2 (土)	木津川市スポーツ大会	15名 (13)	木津川市 中央体育館
11 / 8 (金)	日帰り旅行	3名 (3)	海遊館
11 / 16 (土)	デイセンター交流会	25名 (20) 家族 14名 ボランティア 14名	デイセンター
11 / 28 (木)	班外出 (織)	5名 (4)	京都 SAORI
11 / 29 (金)	班外出 (パン)	8名 (6)	四条畷イオン
12 / 6 (水)	日帰り旅行	3名 (3)	京都市動物園B
12 / 9 (月)	同志社国際学院キャロ リング	12名 (6) 生徒 60名 教師 5名	相楽 デイセンター
1 / 17 (金)	日帰り旅行 (利用者体 調不良で順延、その後 コロナウイルスの為中止)	2名 (2)	USJ

(5) その他

調理、お菓子作り、散歩、カラオケ、スノーズレン

・・・各グループで実施。

絵画 (週2回)、音楽プログラム (月2回)、書道 (月1回)、医療マッサージ (週1回)

・・・希望者が参加

### 3 研修・出張

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
4 / 2 (火)	浄瑠璃寺打合せ 他 5/7(火)・12/17(火)・ 1/10(金)	浄瑠璃寺	1名
4 / 5 (金)	自立支援協議会 他 5/7(火)・13(月)・ 29(水)・6/5(水)・7/3(水)・ 8/6(火)・28(水)・ 10/7(月)・11/12(火)・ 2/3(月)・18(火)	山城南保健所・木津 川市役所	1名
4 / 6 (土)	介護職員初任者研修 他 13(土)・20(土)・27(土)・ 5/4(土)・11(土)・18(土)・ 25(土)・6/1(土)・5(水)・ 7(金)・8(土)・15(土)・ 16(日)・22(土)・29(土)・ 7/6(土)	未来ケア	1名
4 / 12 (金)	同志社国際学院パンチケッ ト販売 他 15(月)・19(金)・22(月)	同志社国際学院	合計 8名
4 / 15 (月)	利用者ケース会議 他 9/4(水)・12/10(火)・ 19(木)・24(火)・1/29(水)	そらーる三山木・奈 良県総合医療センタ ー	1~3 名
4 / 23 (火)	知福協総会	京都社会福祉会館	1名
5 / 9 (木)	ほっとはあと会議	相楽デイセンター	1名
5 / 11 (土)	同志社国際学院きづな祭販 売	同志社国際学院	3名
5 / 21 (火)	3号研修 他 5/29(水)	京都社会福祉会館	1名
5 / 26 (日)	自閉症eサービス 他 6/1(土)・15(土)・ 7/20(土)	奈良県社会福祉総合 福祉センター	1名
6 / 1 (土)	地域生活支援拠点研修	京田辺市社会福祉協 議会	1名
6 / 5 (水)	法人内研修「差別解消法」	相楽作業所	5名
6 / 6 (木)	ほっとはあと総会	ハートピア京都	1名
6 / 7 (金)	浄瑠璃寺「行者まつり」販 売	浄瑠璃寺	2名
6 / 14 (金)	障害福祉サービス事業者等 集団指導	文化パルク城陽	1名

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
7 / 8 (月)	精華町障害児者ふれあいの つどい実行委員会 他 7/24(水)・8/8(木)・ 20(火)・22(木)・23(金)・ 9/11(水)・10/11(金)・ 25(金)・12/4(水)・23(月)	精華町役場	1名
7 / 9 (火)	相談支援現任研修 他 7/22(月)・23(火)	京都テルサ	1名
7 / 10 (水)	強度行動障害基礎研修 他 7/18(木)・29(月)	京都テルサ	2名
7 / 24 (水)	法人内研修「自閉症スペク トラムの理解と支援」	相楽作業所	6名
8 / 9 (金)	木津川市ものづくりフェア 打合せ 他 12/13(金)	木津川市役所	1名
8 / 24 (土)	木津川台夏祭り販売	中央公園	1名
9 / 2 (月)	木津川市障害児者のつどい 打合せ	木津川市社協	1名
9 / 6 (金)	きらりさわやかフェスタ実 行委員会 他 12/7(土)	木津川市	1名
9 / 12 (木)	介護職員初任者研修 他 9/19(木)・26(木)・ 10/3(木)・10(木)・17(木)・ 24(木)・31(木)・11/7(木)・ 14(木)・21(木)・28(木)・ 12/16(月)～19(木)	神の園	1名
9 / 30 (月)	ほっとはあと事業所見学 (えーる)	えーる	1名
10 / 2 (水)	強度行動障害実践研修 他 10/3(木)・4(金)	京都テルサ	1名
10 / 7 (月)	木津川市障害児者スポーツ 大会打合せ	木津川市役所	1名
10 / 17 (木)	木津川市障害者福祉計画策 定委員会	木津川市役所	1名
10 / 17 (木)	食の安全セミナー	文化パーク城陽	1名
11 / 4 (月)	やましろまつり販売	アスピアやましろ	1名
11 / 6 (水)	安全管理者講習	アバンティホール	1名
11 / 10 (日)	木の津まつり販売	木津川市中央体育館	1名
11 / 20 (水)	強度行動障害実践研修	京都テルサ	1名
11 / 21 (木)	浄瑠璃寺販売 他 11/22(金)・23(土)	浄瑠璃寺	利2 名・ 職2 名

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
11/25 (月)	近畿地区知的障害関係施設 長会議 他 11/26(火)	ホテルアウィーナ大 阪	1名
12/2 (月)	木津川市福祉避難所意見交 換会	木津川市役所	1名
12/3 (火)	サービス管理責任者等更新 研修 他 12/12(木)	京都テルサ	2名
12/7 (土)	やましろ福菜市	イオン久御山	2名
12/8 (日)	きらりさわやかフェスタ	あじさいホール	1名
12/12 (木)	自立支援協議会医療的ケア 部会研修	木津川市役所	2名
12/23 (月)	腎臓研修 他 12/26(木)・1/10(金)	相楽デイセンター	22 名
1/12 (日)	木津川市ものづくりフェア	イオン高の原	1名
2/24 (月)	木村元精華町長退任式	けいはんなプラザ	1名
3/11 (火)	ほっとはあとブロック代表 者会議	ハートピア京都	1名
3/27 (火)	さをり研修 他 4/2(木)・4(土)	SAORI 京都	1名

#### 4 見学・実習

##### (1) 見学・来訪 (合計49件)

企業・・・・・・・・25件

学校関係・・・・・・・・8件

施設・・・・・・・・3件

その他・・・・・・・・13件

##### (2) 実習 (合計5人)

職場体験・・・・・・・・3人

保育士実習・・・・・・・・2人

#### 5 所内事故・苦情

前年度比で、総件数は減少したが、車両事故や怪我、個人情報ミスは増加した。利用者のインフルエンザ感染は0であった。苦情も増加した。

	内 容	件 数	備 考
事 故 等	車両接触	5件	車両接触
	怪我	6件	擦過傷、骨折等
	個人情報	5件	実績記録間違い渡し、受給者証持ち帰り忘れ等
	感染症	0件	インフルエンザ感染等
	服薬ミス	1件	確認ミス
	その他	3件	誤食や誤嚥など

内 容		件 数	備 考
苦情	支援について	7件	ノートの記述、受給者証の渡し忘れや怪我柄の対応等

## 6 その他

日 程	内 容	備 考
4 / 2 1 (日)	きらりデイセンター使用 他 5/19(日)・6/16(日)・7/21(日)・9/15(日)・10/20(日)・11/17(日)・12/15(日)・1/19(日)	
4 / 2 8 (日)	自立生活体験学習 他 5/26(日)・6/23(日)・7/28(日)・8/18(日)・9/29(日)・12/1(日)・21(土)・1/5(日)・2/23(日)	
5 / 1 5 (水)	法人理事会 他 5/29(水)・7/10(水)・8/27(火)・10/29(火)	
5 / 1 7 (金)	前期個別支援計画作成	
5 / 2 2 (水)	支援区分認定聞き取り	精華町
5 / 2 9 (水)	精華町特定検診 他 5/30(木)・6/5(水)・7/5(水)・	合計 14 名 精華町役場
6 / 1 (土)	LED工事 (パン班・喫茶・紙漉)	モリタ電化
6 / 5 (水)	デイセンター外壁・屋根改修工事 (7/5 終了)	青山工務店
6 / 1 4 (金)	利用者ボーナス 他 12/13(金)	
6 / 1 7 (月)	防災訓練 他 3/12(木)	所内にて火事・地震想定 の避難訓練
5 / 1 8 (金)	前期個別支援計画書作成	
5 / 2 2 (水)	B肝ワクチン 他 5/24(金)・27(月)・6/24(月)・27(木)・12/21(土)・26(木)・1/27(月)・28(火)・29(水)・3/23(月)・24(火)・25(水)・26(木)・27(金)・30(月)・31(火) 合計 18 名	精華町国保病院

日 程	内 容	備 考
5 / 23 (木)	親の会総会 他 12/11(水)例会	かしのき苑
6 / 8 (土)	販売事業仕分け (茶) 他 12/6(金)・10(火)・13(金)・ 19(木) (クリスマスチョコレート) ・2/5(水)・6(木)・7(金) (バ レンタインチョコレート)・ 3/6(金)ホワイトデー	他に丸大ハムギフト
7 / 18 (木)	職員ヒアリング(織) 他 7/19(金) (パン)・8/2(金) (花 工芸)・5(月) (紙漉)・9(金) (デ イサービス)	
7 / 25 (木)	利用者の会 他 8/23(金)・9/30(月)・ 10/8(火)・31(木)・12/18(水)・ 1/31(金)・3/27(金)	
7 / 31 (水)	7月末で5名の利用者が退所	
8 / 3 (土)	パン班作業場改修工事 他 8/4(日)・9/14(土)・15(日)	キール
8 / 11 (日)	厨房休憩室エアコン工事	
9 / 3 (火)	男性健診 他 9/20(金) 合計 17名	精華町国保病院
9 / 7 (土)	紙漉・織湯沸かし器増設工事	喜多商店
9 / 12 (木)	女性健診 他 9/25(水) 合計 16名	精華町国保病院
9 / 20 (金)	エアコン改修工事 他 9/21(土)・22(日)・23(月) これをもって館内のエアコン 工事は終了	太陽電気工業
10 / 20 (日)	木津川市災害訓練	木津川市
10 / 31 (木)	後期個別支援計画作成	
11 / 19 (火)	インフルエンザ予防接種	
11 / 24 (日)	WAXがけ	フジハラ美装
1 / 26 (日)	エレベータ修理 他 3/13(金)・26(木)	三菱ビルテクノ
3 / 22 (日)	貯水槽清掃	オリックスファシリティーズ

## 社会福祉法人相楽福祉会

### 令和元年度わーく相楽（精華地域活動センター「心」）事業報告（案）

今年度も新たな販売先とつながることができ、利用者にとって販売を通じて仕事へのやりがいや充実感を得る機会を増やすことができた。新規開拓は難しい現状ではあるが、外部での販売は利用者にとって特に働く楽しさや意欲が高まる場でもあるので大切にしていきたい。また、絵画やししゅう、カラオケ、日帰り旅行等利用者が楽しめるプログラムを実施した。

高齢や足元が不安定な利用者が安心・安全に過ごせるように、環境整備を行った。必要に応じて積極的に介護保険事業所や他事業所と連携を取り、情報の共有や支援内容の統一化を図った。

#### <計画に即した評価>

##### 1 基本方針

(1) 利用者一人ひとりのニーズを丁寧に聞き取り、アセスメントに基づいた個別支援計画を作成し、豊かな時間が過ごせるよう日中活動の支援を行う。また他事業所、他機関と丁寧に連携していく。

各利用者に聞き取りをした上で作成した個別支援計画を元に支援を行った。10月に中間評価、年度末に総括を行い、利用者の変化や状況に合わせて対応した。グループホーム入居者については、グループホームとの情報共有に努め支援内容の相談や統一を行った。

(2) 日々の支援の中で人権に配慮できているのかを意識的に見直し、より良い支援を目指す。

年2回チェックシートを使って日々の支援の見直しを行った。意識的に見直す機会を設けることで、支援の質の向上につながったのではないかと。

(3) 喫茶や地域のイベント、販売を通して積極的に住民や地域の方々との交流を深める。

かしのき苑のふれあいまつりやせいか祭りはたくさんのお客様が来店されるため、利用者にとって自分達のパンが売れる喜びをより実感でき地域の方々との交流を深めるいい機会になっている。今後も声を掛けて頂いたイベントには積極的に参加していきたい。

(4) 無理のない範囲で地域や支援学校卒業生の新規利用者を受け入れる。

今年度は新規利用の希望はなかったが、今後も無理のない範囲で受け入れを行っていきたい。

##### 2 事業内容

(1) 「わーく相楽」と一体的に生活介護事業を運営する。

各事業所で喫茶やパン販売、革作業や下請け作業、清掃業務を行った。必要に応じて協力することで一体的に運営することができた。

(2) 人権を尊重し、個別支援計画に基づいた支援を行う。

- ・利用者の思いやニーズを丁寧に聞き取り、支援計画を作成する。
- ・支援内容については積極的に日々のミーティングで話し合うとともに、年度の間で見直しを行う。
- ・サービス利用者引継票（支援マニュアル）を更新し、個々の利用者の変化に対応していく。
- ・他法人事業所を利用されている方が増えているので、どのサービスもスムーズに受けられるように連携していく。

利用者の状況は日々変化するため、毎日のミーティングや月1回の会議、支援計画の見直し時等に積極的に支援内容について情報の共有や話し合いを行った。年度末にはサービス利用者引継票を更新し、グループホーム入居者に関しては支援内容の共有を行った。

(3) 喫茶ところの運営を行う。

- ・「喫茶ところ」の運営を通して、地域の行事やイベントに積極的に参加することで地域の方々と交流を深める。
- ・パンの種類や販売個数、販売先を見直し、作業収入と支出のバランスを取りながら収入の安定を図る。
- ・年齢や体力、体調や障害特性に応じた作業を設定する。

イベント販売時に声を掛けて頂いた介護事業所で販売ができるようになり、新たな販売箇所が増えた。全体の売上が減っている中、つながりを大切にしていきたい。販売時のパンの種類や個数については、常時見直しを行い無駄が出ないように努めた。かしのき苑が工事の関係で3ヶ月間休館になった時は、受注販売に切り替えて対応した。

パンの価格については原材料費の高騰を踏まえて価格の見直しを行い、一部値上げした。消費税増税に対してはもともと店内飲食をするお客様が少なく、また会計処理の混乱を避けるため持ち帰り、店内飲食とも同一価格とした。

(4) 安心、安全な環境を整える。

- ・作業内容・行程・環境を随時見直し、安心安全に作業ができるにしていける。
- ・年齢の高い方が体力を維持しながら健康に安心して過ごせるように、他法人事業所との連携を丁寧に行っていく。

作業によっては危険を伴うため、必要に応じて見守りや声掛けを行った。厨房内のスペースが狭いため、近くを通る時はお互いに声を掛け合うようにする等利用者・職員の動線に気を付けながら作業を進めた。

高齢の方が安全に過ごせるよう室内環境を整え、小さな変化を見逃さず必要に応じてご家族や介護保険事業所と連携をとって対応した。

(5) 職員間の情報共有、連絡、連携を確実にし安定した業務を行う。

- ・夕方のミーティングや職員会議の時間を活用し、情報の共有や意見交換を行う。
- ・研修に積極的に参加し、研修報告を共有することで支援向上に努める。

日々のミーティングや職員会議、また内容や状況によっては随時情報の共有を行った。共有を行うことで統一した対応を取ることができるように努めた。また、内容によってはグループホームや他法人事業所との連携を積極的に行った。

外部研修は重要度の高いものには参加することができた。研修への参加は参加者はもとより他の職員にとっても支援の質の向上につながるため、積極的に参加できるようにしていきたい。

## <資料>

### 1 利用者の状況（平成31年3月31日現在）

- ・利用者数 7名（男2名・女5名）
- ・平均年齢 約45.71歳
- ・平均障害程度区分 約4.57

### 2 活動内容

#### ・喫茶こころ

毎週火曜日～土曜日に営業（第1土曜日、祝日は休業）

6月、11月にかしのき苑、地域の行事に伴い日曜日に臨時開所  
（基本的に翌火曜日に代休）

#### ・配達

平均 12.8回／月

配達先 ・精華町役場職員

・地域の小学校（学童保育）

・地域の保育所職員 など

#### ・販売

日程	販売先	備考
毎月1回	南山城支援学校	
毎月1回	精華町庁舎販売	
毎月1回	日本電産	
毎月2回	発達支援センターすてっぷ	
毎土曜日	J A精華町農産物直売所（J A祝園）	J Aへ委託
4／12(金)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名
4／13(土)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名
5／17(金)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名
5／18(土)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名
5／20(月)	ツアー・オブ・ジャパン京都	職員2名
6／2(日)	ふれあいまつり	臨時開所 利用者6名・職員4名
6／16(日)	文化フェスティバル	職員2名
6／21(金)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名

日 程	販売先	備 考
7 / 13(土)	ひかりだい保育所夏祭り	利用者5名・職員3名
7 / 23(火)	夏季地域学校	注文
8 / 24(土)	精華台一丁目夏祭り	利用者3名・職員2名
8 / 24(土)	祝園西一丁目夏祭り	委託販売
8 / 31(土)	就職フェア	利用者1名・職員1名
9 / 27(金)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名
9 / 28(土)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者1名・職員2名
10 / 18(金)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名
10 / 19(土)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名
10 / 27(日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	注文/職員3名
11 / 3(日)	精華マラソン	職員1名
11 / 5(火)	加茂の里	利用者2名・職員1名
11 / 8(金)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員2名
11 / 17(日)	せいか祭り	利用者3名・職員3名
12 / 1(日)	チャリティーフェスティバル	職員2名
12 / 5(木)	人権シネマサロン	利用者2名・職員1名
12 / 6(金)	人権シネマサロン	利用者2名・職員1名
1 / 8(水)	加茂の里	利用者2名・職員2名
1 / 10(金)	シルバー人材センター	利用者2名・職員1名
1 / 10(金)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名
1 / 11(土)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者4名・職員2名
2 / 1(土)	人権フェスタ	利用者4名・職員2名
2 / 2(日)	鹿背山婦人会	職員2名
2 / 4(火)	加茂の里	利用者2名・職員1名
2 / 28(金)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者2名・職員1名
2 / 29(土)	ハート販売会(けいはんな映画劇場)	利用者4名・職員2名

・その他

絵画(毎水曜日、作業所のプログラムに参加)、  
 パソコン・ししゅう  
 ウォーキング・カラオケ・外食など(基本的に第1土曜日)  
 体重測定(月1回)

3 ボランティア活動

日 程	ボランティアグループ	利用者数
第3木曜日	古布裁断ボランティアこっとな	1名 (4・5・10・12月)

#### 4 行事等

日程	行事名・内容	利用者数（職員数）
4 / 6(土)	花見	7名（3名）
5 / 30(木)	精華町特定健診・がん検診（男性）	2名
8 / 27(火)	木津川市がん検診（女性）	1名
9 / 5(木)	健診（女性）	3名（2名）
9 / 10(火)	木津川市がん検診（女性）	1名
9 / 27(金)	精華町がん検診（女性）	1名
10 / 11(金)	日帰り旅行（海遊館）	6名（3名）
10 / 16(水)	歯科検診	6名
10 / 27(日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	3名
11 / 5(火)	インフルエンザ予防接種	2名（1名）
11 / 13(水)	インフルエンザ予防接種	2名（1名）
11 / 14(木)	手洗い研修（利用者対象）	4名（1名）
1 / 6(月)	新年会	6名
1 / 21(火)	歯科指導	5名
1 / 31(金)	骨密度検査	1名

#### 5 研修・出張

日程	研修名・内容	会場	参加数
4 / 23(火)	精華町庁舎内販売会打ち合わせ	精華町役場	1名
4 / 25(木)	ボランティアセンター運営委員会	かしのき苑	1名
6 / 5(水)	法人内研修 （「差別解消法」「権利条約」について）	相楽作業所	3名
6 / 14(金)	京都府集団指導	文化パルク城陽	1名
7 / 24(水)	法人内研修 （「自閉症スペクトラムの理解と支援」について）	相楽作業所	2名
8 / 29(木)	精華町庁舎内販売会打ち合わせ	精華町役場	1名
9 / 5(木)	ボランティアセンター運営委員会	かしのき苑	1名
9 / 25(水)	精華町庁舎内販売会打ち合わせ	精華町役場	1名
10 / 16(水)	どんちゃん募金使途検討会	かしのき苑	1名
10 / 17(木)	食品表示法勉強会	堺市健康福祉プラザ	1名
11 / 12(火)	法人内研修 （「感染症の基礎知識」について）	作業所	4名
12 / 19(木)	食品表示法勉強会	堺市健康福祉プラザ	1名
1 / 16(木)	食品表示法勉強会	堺市健康福祉プラザ	1名
2 / 20(木)	食品表示法勉強会	堺市健康福祉プラザ	1名
3 / 6(金)	ボランティアセンター運営委員会	かしのき苑	1名

## 6 所内事故・苦情

内 容		件数
事故等	車両（9／20 バック時に車両後方部を接触）	1件
	車両（3／26 走行中車両左前方部が縁石に接触）	1件
苦情		0件

## 7 その他

日 程	内 容
6／15(土)	喫茶こころ害虫駆除
8／27(火)	ヴォクシー車検
9／18(水)	防災訓練（かしのき苑と合同）
10／28(月)	喫茶空調点検
11／20(水)	作業所避難訓練（利用者1名参加）
12／13(金)	南山城支援学校中等部見学
12／14(土)	かしのき苑法定点検のため停電
12／28(土)	喫茶こころ害虫駆除
1／27(月)	喫茶LED工事
3／16(月)	喫茶ワックスがけ

## 社会福祉法人相楽福祉会

### 令和元年度わーく相楽（（クリエイティブスペース）ていすと）事業報告（案）

8月に家庭の事情により利用者1名が退所。11月・12月・3月と地域からの新規利用者の受け入れを行う。また3月末に1名の利用者が退所と、利用者の入れ替わりが多い一年であった。新しい利用ニーズの中には知的障害の方だけでなく、精神障害や引きこもりの方などこれまで福祉施設の利用実績のない方が多く、これまで以上に地域からのニーズの高まりを感じた。

作業面では今年度に入り委託店舗の縮小が相次ぎ、革作業の売上げが減った。販売ルートの開拓や新製品の開発などで工賃アップに繋げる必要がある。利用者人数の増加と共に作業設定にも苦慮するようになってきた。新たに4月～5月に山一加工・平川商店と、翌年3月には内職市場と作業契約をした。

### <計画に即した評価>

#### 1 基本方針

1 利用者一人ひとりのニーズに基づき個別支援計画を作成し、個性を大切にしながら日中支援を行う。

5月に個別支援計画を作成、10月に見直しを行った。支援計画をもとに日々の反省会の中で作業内容の検討や日中の過ごし方を話し合った。

2 作業活動を通じて経験と出会いを大切に、地域とのより広い関係の構築を目指す

革製品の委託販売を通じて、地域のお店との関係づくりを行った。  
革作業・下請け作業など仕事を中心にした事業所作りを行った。

3 年齢及び障害の状況に合わせた安心・安全な支援を行い、利用者の人権を尊重する。

障害の重度化、高齢化が課題となる中、どの利用者も通院の機会が増えた。週に2回程度の運動プログラムを取り入れた。

4 新規利用者の受け入れをすすめると共に、合理的な事業所合築に向けて検討を行う

11～3月にかけて3名の新規利用者の受け入れを行った。エコ・クリーンとの職員の交換や合同会議などを行った。

## 2 事業内容

(1) わーく相楽としてエコ・クリーンと一体的に生活介護事業を運営する。

エコ・クリーン相楽と共に、「わーく相楽」として一体的に事業運営を行う。

(2) 日中活動において、利用者一人ひとりの個別支援計画に基づき支援する。

- ・個別支援計画の定期的な見直しを行い、細やかな意見の聞き取りと、より充実した支援を行う。
- ・毎日のケース検討により、支援の経過や課題等をスタッフ間で共有する。

5月に個別支援計画の作成、10月に見直し、3月に支援計画の総括を行った。アセスメントや支援計画を元に、毎日の反省会においてスタッフ間で話し合い、支援の方向性を検討した。

(3) 作業活動を主体に、やりがいや責任感が持てる仕事を提供する。

- ・質の高い革製品作りを行い、地域や委託店舗と連携した活動を目指す。
- ・個々に合わせた下請け作業を請け負い、継続して提供する。

- ・革製品の質は上がってきているものの、委託店舗の閉店や販売縮小が相次ぎ売り上げが減ってきた。販路開拓拡大が課題となっている。
- ・個々の利用者に合わせた軽作業を準備すべく、新たに3社から仕事を貰い受けた。利用者数が増えた分、毎日の作業提供に苦慮する場面が増えた。また、より単価の高い作業を探す必要がある。

(4) 安心・安全に務めた事業所運営を行う

- ・日々の情報共有の中からヒヤリハット事例の収集とその対策に取り組む

- ・利用者数が増え、改めてヒヤリハットの洗い出しが必要となってきた。
- ・高齢化、障害の重度化に対する対応が必要になってきた。  
事故や病気への防止の為週2回程度の運動を実施した。
- ・職員の送迎車輛でも自損事故が相次いだ。  
運転方法の見直しなど改めて安全運転を心がける必要がある。

## <資料>

- 1 利用者の状況 …年度中に3名入所、2名退所  
男性 9名 女性 4名 合計 13名（職員4名）  
平均障害支援区分 4.16（他1名就労継続B型で契約）  
平均年齢 43.3歳
- 2 日中活動内容
  - (1) 革作業  
革製品の製作。（財布、キーケース など）  
木津川市、精華町、枚方市 等の委託店舗で販売。
  - (2) 下請け作業（新栄工業・フクサン株式会社・山一加工）  
「ノンリーク金具（ウレタンシール貼り）」「からみ（輪っか）」  
「梅のへた取り」「バリ取り」「押し花」「クマの置物」「ハブラシ」  
などの各種作業を実施した。
  - (3) 委託店舗先 訪問（納品） 5店舗  
店舗によるが1～3ヶ月毎に、製品の入れ替えを行った。
  - (4) その他  
カラオケ（3ヶ月に1回）、絵画（作業所プログラム毎週）、  
木津育栄会とのお菓子づくり（年1回）、歯科検診、歯科指導、健康  
診断、体重測定（月1回）、インフルエンザ予防接種、  
入浴支援（一部利用者に週1回程度）
- 3 行事関係

日時	内容	場所
4月5日	お花見	鳥谷公園
5月17日	カラオケ外出	レインボー
6月9日	調理実習（カレー）	かしのき苑
17日	木津育栄会お菓子作り	木津保健センター
19日	避難訓練	所内
7月12日	外出レク	コカ・コーラ工場
9月13日	カラオケ外出	レインボー
10月18日	大相撲観戦招待	島津アリーナ
10月31日～1日	一泊旅行	白浜
11月26日	日帰り旅行	USJ
1月10日	新年会&成人お祝い	ココラク
2月7日	カラオケ	レインボー
3月19日	年度末会	中止（所内で弁当出前）

おおよそ年間予定どおりに行事を実施できた。

11月には白浜への一泊旅行を実施した。

#### 4 事故、苦情

内容	件数
事故	3件
苦情	0件

7/2 車両事故(アルプラザ木津駐車場にて他者の車にぶつける)

8/2 車両事故(木津神田バス停付近の縁石に自損事故)

3/4 車両事故(わーく相楽駐車場にて送迎車に自損)

年間に3件の車両の事故が起きている。

全て不注意からの自損事故であった。

送迎コース以外での安全運転・事故後の対応が問題となった。

#### 5 見学、実習 受け入れ

日時	内容
8/6~8/8	支援学校実習生
9/12	個人 見学 →実習
10/25	弘徳学園見学
11/6	南山城支援学校2年生保護者見学(3名)
11/7	支援学校実習生
11/11	個人 見学 →実習
11/14	個人 見学
2/5~6	個人 実習

・地域の方からの見学が多く見られ、うち3名の方の通所に繋がった。

・支援学校からの実習生2名を受け入れた。

#### 6 その他・会議、研修等

日時	内容
5月13日	販売会会議(中野)
6月5日	権利条約差別解消法(法人内研修)
7月24日	発達障害(法人内研修)
30日	初任者研修(法人内研修)
9月26日	革ワークショップ研修(井原)
11月12日	感染症(法人内研修)
2月17日	Dプロジェクト見学(中野、井原、利用者1名)

日 時	内 容
2月20日	販売会会議（中野）
3月8・9日	有償運送安全運転講習（中野） →中止

勤務1～2年未満の新職員を中心に研修や見学に参加して貰った。

## 7 その他

- ・避難訓練2回実施（エコと合同）
- 利用者健診（内科）1回実施
- 歯科検診・指導（1回ずつ実施）

社会福祉法人相楽福祉会  
令和元年度わーく相楽（エコ・クリーン相楽）事業報告(案)

新しい場所で「わーく相楽」として再出発から 2 年が経ち、事業所内の環境を少しずつ整えていく中で、利用者にとって心地良く過ごせる生活の場として少しずつだが定着してきたように思う。

作業面においては行政との業務委託契約の履行のため、年間を通して計画的に作業設定及び実施するよう努めた。除草作業について悪天候等のため作業できない日が続き遅延傾向ではあったが、作業設定の調整を行う事で年度内には終えることができた。昨年度より利用者とともに進めてきた清掃道具（雑巾）の管理方法の改善を 4 月より実施し、年度末の振り返りの機会では引き続き続けていくことで合意した。

年度途中 1 名の利用者を迎え入れたが退所した利用者もおり、思うように新規利用者の確保はできなかった。現実問題として「働き手」が不足しており、今後作業をスムーズに遂行していくためには、解決したい課題である。

## <計画に即した評価>

### 1. 基本方針

- |   |
|---|
| (1) 利用者の人権が尊重され、自己実現に向けて主体的に過ごすことができるよう支援を行う。 |
| (2) 「ともに働く」なかで個別のニーズの掘り起こしとそのニーズに応える支援を行う。    |

利用者一人ひとりのアセスメントに基づき支援計画を作成し支援を行った。中間時期には本人と計画の見直しを行い、年度末には計画の評価を行った。

- |                               |
|-------------------------------|
| (3) 「ていすと」と連携しながらわーく相楽の運営を行う。 |
|-------------------------------|

共有すべき情報については、朝礼時等の時間を利用し伝達した。3 月より月に一度職員全体会議の機会を設け、次年度も継続していくこととした。

### 2. 事業内容

- |  |
|--|
| (1) 地域の公園や社会教育施設の清掃、管理を主な作業内容とし、わーく相楽における「生活介護」、「就労継続支援 B 型」事業を実施する。 |
| ・行政との業務委託契約履行のため、計画的に作業設定を行い実施する。                                    |

夏期の草刈り作業が今年度も悪天候等のため遅延傾向であったが、作業内容の調整等を行う事で契約内容通り履行することができた。

- |                                  |
|----------------------------------|
| ・作業内容については、利用者一人ひとりの状況に配慮して設定する。 |
|----------------------------------|

個別支援計画作成時のアセスメントで聞き取った作業へのニーズに基づき、草刈作業を希望されない利用者にはトイレ清掃中心の作業プログラムに参加してもら

う等、利用者の希望、状況に合わせて作業設定への配慮を行った。

- ・新規利用者の受け入れ、利用者の高齢化を視野に入れ、作業内容の拡充と見直しを行っていく。

1 1月より新規利用者を1名受け入れたが、利用者不足という課題は解消されていない。年々利用者の年齢層は高くはなっていくが、利用者も現状維持を希望しているという事もあり、具体的な取り組みは着手できなかった。

(2) 利用者のニーズに基づき個別支援計画を作成し、中間評価を行いながら支援する。

- ・日ごろの利用者との関わりから、タイムリーに必要な支援が行えるよう努める。
- ・会議等で日々の利用者の状況を職員間で共有し、支援内容の振り返りや支援方法の調整を図り人権が守られた支援を行う。

利用者からの聞き取りに基づき個別支援計画を作成し、会議の場で検討を行い職員間で共有した。中間時期には再度個別に聞き取りを行い計画の調整を、年度末には年間の評価を行い次年度に繋げるようにした。日々の関わりから利用者の状況を知るとともに日々の反省会の場で情報を共有し、速やかに支援内容に反映するよう努めた。

- ・法人内研修や外部研修の参加など職員の資質向上に努める。

法人内研修については、それぞれの職員が対象の講義に参加した。外部研修については勤務体制を調整し資格取得のための講習会に参加した。

(3) 旅行や休日レクリエーションを利用者とともに計画し実施する。

- ・内容については日中活動の中で全員で話し合う時間を設け決定する。
- ・利用者が外部研修等に参加する機会も積極的に作り、主体性を伸ばしていけるよう支援を行う。

行事やレクリエーションの企画については、日中活動の時間内で時間を設け話し合いのうえ決定した。実施後は作業時間内で参加利用者一人ひとりに感想を聞く機会を設けた。他法人が企画する障害者が働く場の見学会や農業体験会、講演等の情報提供を行い職員と数名の利用者が参加した。

(4) 安心・安全な環境確保に努める。

- ・職員の安全管理に関する意識を高めるとともに、利用者の安全が保たれるよう常時作業環境の点検を行っていく。

作業において、移動の際の車両運転を含め安全には留意し作業を行った。日々の反省会等の時間を利用し実施作業の進捗状況の共有、修正、引継ぎ等行い効率よく作業遂行ができるよう努めた。機器のメンテナンス、補修、修理依頼などを作業に支障がないよう適宜実施、安全面も配慮し新しい機器の導入も行った。所内においても必要物品はその都度購入した。

- ・居心地の良い場を提供できるよう雰囲気作りに努める。

作業への意欲や全員の一体感を深めてもらうため、日々雰囲気作りには配慮して

支援にあたったが、一部利用者間の相性の問題へのアプローチが上手くいかず叶わなかった。次年度は大きなトラブルにならないよう支援方法を検討していきたい。

・施設内の安全が保たれるよう、ていすとと連携しながら環境整備に努める。

「ていすと」と日々意見交換、情報共有を行いながら、施設内の危険個所の有無のチェックや利用者の支援を行った。

(5) 法人内での連絡と報告を徹底し、連携した施設運営を行う。

日々法人内各事業所と連携し、特別な事項がある場合には報告・連絡・相談を行うよう努めた。

## <資料>

### 1. 利用者の状況（※令和2年3月時）

(1)利用者数 8名

生活介護 5名(男性5名) ※平均障害程度区分：4.0

就労継続支援B型 3名(男性3名)

(2)平均年齢 52歳

### 2. 活動内容

#### (1)作業

・精華町(建設課) 山田川駅前交通広場等維持管理業務委託

場 所	内 容
山田川駅前交通広場	ごみ拾い 除草 散水 等
祝園駅西側公衆便所	トイレ清掃 ごみ拾い
鳥谷公園	トイレ清掃 ごみ拾い 散水 等
池谷公園	トイレ清掃 ごみ拾い 散水 等
畑の前公園遺跡の杜	トイレ清掃 ごみ拾い 散水 等

・精華町(建設課) 池谷公園他除草業務委託

場 所	内 容
鳥谷公園	除草 塵埃収集 処分 等
池谷公園	除草 塵埃収集 処分 等

・精華町(体育協会) 維持管理業務

場 所	内 容
打越台グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い 溝掃除 グラウンド管理棟清掃 グラウンドベンチ清掃 等

・木津川市（教育委員会）社会体育施設清掃等委託業務

場 所	内 容
兜谷グラウンド周辺	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
木津グラウンド周辺	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 整地 抜根 等
木津川台グラウンド	ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
梅美台テニスコート	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 等
赤田川グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
加茂体育館	トイレ清掃 除草 等
加茂グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 等
山城コミュニティ 運動広場	トイレ清掃 ごみ拾い 等
木津川市中央体育館	除草
城址公園	(社会体育係業務委託) トイレ清掃 ごみ拾い 等
	(文化財保護室業務委託) トイレ清掃 ごみ拾い 等

- ・相楽福祉会 ゴミ回収・生ゴミ回収(6～9月) 除草 等
- ・精華町障害児者育成会 古紙回収
- ・リサイクル業務(空き缶回収)
- ・廃油石鹼作り
- ・地域の方からの除草依頼(2件)
- ・地域の方へ落ち葉運搬

※加茂体育館は2月末で清掃業務終了。(廃館のため)

※廃油石鹼の材料費の原価が高騰してきたため、消費税増税の際に価格を変更した。(10月より1個の単価を75円から100円に変更)

(2)レクリエーション

日 程	内 容	参加利用者数 ※(スタッフ数)	備 考
4 / 5 (金)	花見	9名(3名)	鳥谷公園
5 / 2 5 (土)	嵐山トロッコ	9名(2名)	
6 / 2 9 (土)	スポッチャ	9名(2名)	奈良
8 / 2 4 (土)	カラオケ・ボウリング	6名(2名)	新田辺駅
9 / 2 8 (土)	堅田散策	7名(2名)	滋賀県堅田駅
1 2 / 2 1 (土)	奈良公園	6名(2名)	
1 / 1 0 (金)	新年会	8名(3名)	外食
2 / 2 2 (土)	一休寺	8名(3名)	

※新年会について、外食後に事業所に戻った後、「ていすと」と合同で催しものを企画し実施した。

※7月は台風のため、3月はコロナウィルス対策のため外出中止とした。

(3)行事・利用者研修等

日 程	内 容	参加利用者数 ※(スタッフ数)	備 考
6 / 7(金)	精華町特定健診	3名	精華町役場
6 / 24(月)	農業見学会	4名(1名)	しょうがい者就業・生活支援センター「あん」主催 いざわファーム
9 / 2(月)、 10(火)	健康診断	4名(2名)	精華病院
10 / 9(水)	歯科検診	2名	相楽作業所
10 / 16(水) ～18(金)	福井旅行	4名(2名)	
10 / 30(水)	農業体験会	4名(1名)	しょうがい者就業・生活支援センター「あん」主催 いざわファーム
11 / 12(火)	障がい者が働く場の見学会	3名(1名)	京都府立大学附属農場
11 / 13(水) ～15(金)	広島旅行	2名(2名)	
11 / 19(火)	インフルエンザ予防接種	3名(3名)	
12 / 14	こころの健康出前講座	1名(1名)	木津川市東部交流会館
12 / 28(金)	相楽作業所餅つき手伝い	5名(2名)	浄瑠璃寺鏡餅作り
1 / 21(火)	歯科指導	7名	相楽作業所

### 3. 職員研修・出張

日 程	内 容	会 場	参加者数
6 / 4 (火)	自立支援協議会就労支援部会	山城南保健所	1名
6 / 5 (水)	法人内研修「差別解消法」	相楽作業所	2名
6 / 14 (金)	京都府集団指導	京都テルサ	1名
7 / 10 (水)、 29 (月)	強度行動障害者支援者研修(基礎)	京都テルサ	1名
7 / 24 (水)	法人内研修「発達障害」	相楽作業所	2名
8 / 7 (水)~ 9 (金)	就業支援基礎研修	京都職業能力開発促進センター	1名
9 / 18 (水)	自立支援協議会就労支援部会	山城南保健所	1名
10 / 2 (水)~ 4 (金)	強度行動障害者支援者研修(実践)	京都テルサ	1名
11 / 1 (金)、 12 (火)	法人内研修「感染症」	デイセンター 相楽作業所	3名
2 / 25 (火)	精華町委託業務(除草)監査	精華町役場	1名
3 / 26 (木)	精華町委託業務(清掃)監査	精華町役場	1名

### 4. その他

日 程	内 容	備 考
6 / 19 (水)	避難訓練	わーく相楽全員
8 / 16 (金)	警報のため11時開所	
10 / 12 (土)	警報のため休所	
12 / 3 (火)	避難訓練	わーく相楽全員
3 / 24 (火)	消防機器点検	(株)バルテック

社会福祉法人相楽福祉会  
令和元年度サービスセンター相楽事業報告（案）

当年度は、緊急による短期入所の利用が5件あり、その内1件は2か月以上に及ぶ長期の利用で、他事業所職員の協力を得ながら対応した。緊急・逼迫性が高いニーズを優先して短期入所と日中一時支援の提供を行った。新規事業者の参入により9名の通所利用者が退所となったため、とりわけ短期入所と日中一時支援の減少幅が大きかった。

通院支援は、月平均70件程度の利用があり、緊急による利用は年間で35件あった。ガイドヘルプ（行動援護・移動支援）は、月平均90件程度の利用があり、グループホーム入居者を中心に可能な限り対応した。ガイドヘルプについては、ニーズに合った支援が行えるよう、他法人のサービス紹介も含めて引き続き調整が必要である。

南山城支援学校の生徒で緊急対応が必要になったケースについて、受け入れ先がすぐに見付からなかったため、9月下旬から12月末にかけてサービスセンターが場所を提供し、他事業所から介助者を派遣するという方法で対応した。

安全対策等については、20年以上経過し建物の外壁と屋根の老朽化が進行しているため、次年度に先ず外壁の塗装工事を行う。また、事故を防止するため危険箇所へは迅速に対応し、老朽化した設備に対しても計画的に修繕を行っていく必要がある。

### <計画に即した評価>

#### 1 各種サービス

- ・フェイスシートや支援計画の更新を行い個々の利用者にあった支援内容を検討する。
  - ・必要に応じて本人・家族、関係機関、他事業所と相談しながらサービス内容の見直しを行う。
  - ・少しでも多くのニーズに対応できるようスタッフ確保に努める。
- なお、新規利用者へのサービス提供は可能な範囲で行っていく。

必要に応じて家族や他事業所と相談しながらサービス内容の検討、見直しを行った。

当年度も相楽作業所、相楽デイセンターの各施設長を交えてサービス調整会議を毎月実施し、緊急性が高いケースについての情報を共有し、また、調整を行うことで効率的に人員を配置するよう努めた。

スタッフ確保は課題だが、潜在する短期入所の利用ニーズには可能な範囲で対応していく必要がある。新規利用者へのサービス提供は、短期入所と日中一時支援でそれぞれ1名ずつ行った。

居宅での身体介護利用者1名について当年度より他法人複数事業所と連携して支援することになり、提供サービスが重度訪問介護に切り替わった。行動面の課題がある利用者だが、他事業所への引継ぎの難しさを感じた。

## 2 支援の質の向上

- ・利用者に対して人権に配慮した支援ができているか常に振り返り、また、不適切な支援に対して指摘し合える職員関係を築く。
- ・職員間の報告・連絡・相談、情報の共有を確実にを行い、個々の利用者に応じた支援を行う。
- ・利用者の変化に確実に気付き、設備や支援内容の見直しを随時行う。
- ・法人内部および外部研修に計画的に参加し、職員の資質向上を図る。
- ・ミーティングや個別の話し合いの場を積極的に作り、支援の質的向上に努める。

他事業所と連携して情報を共有し、業務日誌等を用いて服薬内容や留意事項について配置スタッフへの引継ぎを行った。

日々の支援の中で気付いたことはその都度話し合い、支援内容を改善すると共に共通認識を図った。

内部研修への参加しかできなかったが、可能な限り外部研修にも参加し支援の質の向上に努める。特に人権及び障害の理解に関しては継続的に続ける必要がある。

## 3 事業所機能の充実

- ・関係機関、他事業所との連絡を密に行い情報の共有と連携をはかる。
- ・安全運意識の向上に努め交通事故を防止する。
- ・年2回の防災訓練を行い、災害対応に関する知識やノウハウを習得する。
- ・薬、個人情報、貴重品等を厳重に管理し、紛失や間違いが起こらないように努める。
- ・老朽化し始めている建物・設備等の修繕を計画的に行い、安心・安全で快適な環境を整備していく。

必要に応じて他事業所と連絡を密に行い、情報を共有し連携をはかることができた。

京都運輸支局より、安全運転確認の際にアルコール検知器も使用するよう指摘を受けて、次年度から導入し更なる安全運転意識向上に努める。

サービス利用時に持参された薬や貴重品、受給者証、その他個人情報に関わる書類等を細心の注意を払って取り扱うことで、紛失や間違いが起こることを防ぐことができた。

使い捨て手袋や消毒液（ジェスパ）、ペーパータオル等は通年使用し、また、年度末に近かったが入浴介助用エプロンを導入することで感染症予防に努めた。

ガス給湯器の経年劣化により取替えを行い、また、夜間のプライバシー保護のために自動ドア2カ所のロールスクリーン取付工事を行った。大規模修繕は、次年度に先ず建物外壁の塗装工事を行い、屋根の工事についても計画的に進めていく。

<資料>

1 利用者の状況（登録利用者数）

- ◎相楽福祉会通所利用者 86名
- ◎上記以外 8名

2 事業内容

- ① 居宅介護（身体介護・家事援助・通院等介助）
- ② 行動援護
- ③ 重度訪問介護
- ④ 短期入所
- ⑤ 日中一時支援
- ⑥ 移動支援
- ⑦ 福祉有償運送

《参考》サービス提供の状況（件数）

サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月
居宅介護（身体介護）	88	87	87	92	82	84
居宅介護（家事援助）	1	4	0	2	2	3
居宅介護（通院等介助）	67	71	74	75	75	66
行動援護（通院）	7	6	8	3	4	4
行動援護	48	61	42	38	52	49
重度訪問介護	80	81	77	77	79	74
短期入所	30	32	30	30	29	35
日中一時支援	159	149	157	175	125	125
移動支援	44	56	33	42	49	41
福祉有償運送	169	156	168	179	146	131

サービス内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護（身体介護）	87	85	86	85	72	78	1013
居宅介護（家事援助）	1	3	1	1	2	2	22
居宅介護（通院等介助）	72	64	64	77	61	70	836
行動援護（通院）	7	5	6	3	8	12	73
行動援護	38	39	41	49	45	32	534
重度訪問介護	82	78	81	83	76	86	954
短期入所	48	43	27	18	18	21	361
日中一時支援	132	125	125	124	115	111	1622
移動支援	44	37	47	54	46	36	529
福祉有償運送	147	151	137	152	140	148	1824

※短期入所…1泊2日を1件とカウント

### 3 研修・出張

日程	研修名・内容	会場	参加
6/14 (金)	京都府集団指導	文化パルク城陽	1名
11/1 (金)	法人研修「感染症の基礎知識」	相楽デイセンター	2名
2/17 (月)	木津川市・精華町福祉有償運送運営協議会	精華町役場	1名

### 4 事故・苦情

内 容		件 数
事故	服薬ミス	0
	怪我	0
	車両事故	0
	情報連絡	0
	感染症	0
苦情	利用者間トラブルで家族より 身体介護利用中、職員の言動に対して本人より	2

### 5 その他

日程	内容	備考
6/8 (土)	自動ドア 2カ所 ロールスクリーン取付け	キール株式会社
7/22(月)	公用車ムーヴ (2687) カーペットフック取替え	奈良自動車工業株式会社
11/24(日)	ワックスがけ	フジハラ美装
12/23(月)	防災訓練	
12/26(木)	ガス給湯器点検 燃焼異常 (エラー903)	竹中ガス住設センター
1/30(木)	ガス給湯器取替え	正直屋
3/2(月)	公用車ムーヴ (2台) リコール修理	ダイハツ木津川台店
3/19(木)	防災訓練	
3/22(日)	貯水槽清掃	オリックスファシリティズ
3/25(水)	消防設備点検	ベルテック株式会社

## 社会福祉法人相楽福祉会

### 令和元年度 グループホームサポートセンター「樹葉」 事業報告（案）

グループホーム資源を拡大できない状況が続いているが、人員体制増強で課題となっている夜間宿泊・休日日中支援における通所等他事業所職員への依存状態は年々改善している。休日勤務に対する手当が充実された効果もあってか、特に非常勤夜間支援員の入職により、他事業所職員の宿泊回数は大幅に減少した。引き続きマンパワーの確保に取り組みたい。

安心、安全の確保において、重点課題とした服薬支援事故は9件で前年度比7件増加した。ヒヤリハット事例は12件あり服薬機会の多いグループホーム運営では対策の継続が必要である。災害対策では前年度より水などの備蓄を始めたが、当年度は災害時用保存食を購入し、各住居約5日間の食料を確保した。

生活支援においては、高齢期入居者の介護保険サービスの利用を他事業所との連携しつつ継続している。加齢に伴う身体機能等低下に対し、リハビリテーションを重視した事業所利用を勧めた。また、3住居各1室に空室があったが、新たな入居者を迎えた。入居者の選定については、ご本人ご家族のニーズ・年齢・状況等を考慮し、法人内管理職で検討し決定した。

当年度は年度末に新型コロナウイルス感染症が全国的に流行し、入居者の外出について3月より自粛をお願いした。暮らしの質を大きく影響する休日活動が制限され、毎日の暮らしにおいて閉塞感や彩りの無さに繋がっていると感じた。

## <計画に即した評価>

### 1 生活支援

- ・一人ひとりのニーズに沿った支援計画に基づいて支援し、必要に応じ見直しを行う。
- ・介助手順・マニュアルや生活歴既往歴等のデータを充実させ、良質で均質な支援を継続する。
- ・高齢入居者に必要な介護や支援体制・住まいの形態について検討する。
- ・他事業者のサービスも活用し、介護や余暇支援の充実をはかる。

個別支援計画に基づいて支援を行なった。制度改正があった前年に引き続き、行動面での配慮が必要な入居者に対する支援計画シートや個別支援計画の内容精査、自傷行為に対する安全配慮が身体拘束に該当するか等の対応を行った。介護保険サービスを利用している入居者については、ケアマネジャーや介護保険事業所等と随時会議にて情報共有を行った。なお、インフルエンザは職員1名が感染したものの、住居内の感染拡大は防止できた。ノロウイルスに感染した入居者はいなかった。

当年度は企画別3コースのレクリエーションを計画し、希望する企画に参加する形で開催した。普段は個人単位のガイドヘルプサービスを利

用して休日支援を行ない、他法人事業所のガイドヘルプサービスも活用できるように調整を行なった。介護保険対象入居者の中では土曜日や日曜日に介護保険デイサービスを利用した人もいた。

## 2 安心、安全の確保

- ・服薬支援・介助において、事故やミスが無いよう重点的に取り組む。
- ・危険物、薬品、貴重品、個人情報等を厳重に管理し、間違いが起こらない環境整備に努める。
- ・支援方法や構造等における危険個所を随時確認し改善する。
- ・避難訓練等を行い火事や災害時の危機対応に備えるとともに備蓄品の整備を行う。また、非常災害対策計画の策定について検討をはじめ

前年度に継続して重点課題とした服薬支援事故は9件で前年度比7件増加した。ヒヤリハット事例は12件あった。かみこま相朋舎で他住居からの服薬確認連絡を受ける態勢、入居者の処方内容をリアルタイムで一元的に把握する体制は継続している。

災害対策として、賞味期限25年の災害時用保存食を購入し、各住居約5日間の食料を確保した。今後も計画的に備蓄する予定だが、保管場所の課題がある。

## 3 支援の質の向上

- ・職種に関わらず支援に携わる者全てが互いの支援の在り方について指摘し意見を交わすことによって、入居者を尊重したよりよい支援を行う。
- ・計画的に研修・見学機会を設け、職員の人権意識、資質向上をはかる。

当年度は他法人と視察交流し、他法人グループホーム視察を予定していたが、新型コロナウイルス感染症を留意し中止した。外部研修では日本グループホーム学会全国大会へ2名派遣するなどした。

事業所、住居ごとの会議を開催し生活支援員・世話人各々の視点で入居者支援についての気づきや改善内容を共有した。また、支援や業務の振り返りをチェックシートを用いて実施した。

- ・夜勤や変形労働時間を活用し効率的な人員配置に努めるとともに、夜間休日の人員確保をすすめる。

前年度末に男性常勤職員が増え、ほうその相朋舎が常勤2名から3名の体制になり、休日昼間の業務の一人あたりの負担が軽減した。かみこま相朋舎の夜間支援員配置を週2～3回程度3名から2名に減員する体制を継続し、通所施設の応援を活用する形態は定着している。また、当年度は夜間支援アルバイトが多数入職し、全体的に状況は改善している。年次有給休暇は、通所事業所等に比べ取得しづらい状況であったが、制度に沿

った回数を取得することができた。

また、24時間365日稼働している事業であるため、勤務形態や時間帯が多様であり、勤務管理のためにタイムレコーダーを導入した。

## <資料>

### 1 利用者・住居の状況（令和2年3月31日現在）

	かみこま 相朋舎	ほうその 相朋舎	はげ 相朋舎
所在地	木津川市	精華町	木津川市
開設年	2005年	2014年	2013年
入居者数	男2、女3	男10	女8
平均年齢	51.2歳	53.2歳	55.8歳
障害支援区分(平均)	5.6	5.2	5.6
夜間支援体制	男2、女1	男2	女1

1名の入居者が退居され、1名新たな入居者を迎えた。次年度当初に2名新たな入居者を迎え、全住居満室となる予定。要介護認定を受けている入居者は4名。長期入院している入居者は1名。

### 2 レクリエーション

前年度は5年に1度のグループホーム入居者全体でのレクリエーションを立案したが、当年度は企画を立て好きなコースに参加していただく形態をとった。当年度の内容は次のとおり。次年度も企画別レクリエーションを開催する予定。

- 9/15（日） プロ野球観戦（大阪市、入居者3名、スタッフ2名）
- 11/ 3（日） バーベキュー（城陽市、入居者7名、スタッフ7名）
- 12/ 8（日） ホテルランチ（奈良市、入居者10名、スタッフ6名）

### 3 研修

法人内研修および外部研修に参加した。法人内研修は業務上参加できない傾向が従来からあるが可能な限り参加した。外部研修では、前年度参加した日本グループホーム学会全国大会へ当年度も2名派遣したほか、近畿地区グループホーム職員研修会3名、サービス管理責任者更新研修1名、府社協新任研修1名、自閉症eサービス1名、強度行動障害支援者研修2名、災害対策研修2名派遣した。また、介護福祉士の国家資格を1名が取得した。当年度は他法人グループホームの視察を計画したが、新型コロナウイルス感染症を留意し中止した。次年度以降も非常勤職員を含め学ぶ機会を増やし、資質向上をはかりたい。

#### 4 事故・苦情

服薬ミスは前年度減少し当年度も継続して重点課題としたが、服薬支援事故は9件で前年度比7件増加した。ヒヤリハットが前年比1件減の12件であった。服薬事故は、薬剤飲みこぼしの見逃しが4件と半数近くにのぼった。服薬ヒヤリハットは薬ケースから取り出す際の日付間違いと、服薬忘れそうになったのをチェックして気づく、というものが6件ずつであった。転倒は医療機関受診をしなかった軽いものは件数に挙げていないが、他法人事業所のガイドヘルプ利用時に捻挫し骨折されたことがあった。他法人事業所からの苦情は他法人事業所のガイドヘルプ利用時に、入居者本人が時間を守らないことについて。入居者の様々な不満・苦情は潜在的に多々あると思われる。その他事故は、手指に貼っていた絆創膏を誤飲した、爪切り介助で指を切ってしまったこと。車両事故は、車検受け忘れ、ドア開閉時の指つめ、住居近辺での私用車の物損事故。

服薬ミス	9件
転倒（大きなもの）	0件
その他事故	2件
車両事故	3件
対外トラブル	0件
苦情（入居者より）	0件
苦情（他法人事業所より）	1件

#### ●服薬事故年次推移

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
8件	4件	6件	10件	2件	9件

#### 5 支援体制の状況（夜間・休日等）

通所等他事業所常勤職員のひと月あたりの配置回数は、男女ともに減少傾向にある。支援体制の工夫やアルバイト増加が要因である。徐々に安定した傾向がみられるが、休日に通所等他事業所常勤職員を配置する割合は高い。また、グループホーム担当職員の負担も依然大きいと感じる。

以下、状況の年次推移。

#### ●GHでの外部スタッフ依存率の年次推移

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
男性	59.9%	45.3%	41.9%	36.9%	33.5%
女性	41.0%	28.8%	22.8%	20.3%	12.0%

グループホームでの通所等他事業所常勤職員への依存率の推移である。平成28年度に大幅に依存率が低下した。特に、女性は令和元年度にも低下した。

夜間支援非常勤職員が増加しており、年々その傾向が継続しているが、非常勤職員であるため、退職なども流動的であり楽観はできない。

●通所等他事業所常勤職員の GH・短期入所等の稼働状況の年次推移（男性）

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
月平均回数	4.3回	3.8回	4.0回	3.1回	3.1回
休日率	50.9%	55.8%	52.1%	52.5%	54.1%

●通所等他事業所常勤職員の GH・短期入所等の稼働状況の年次推移（女性）

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
月平均回数	5.3回	3.7回	3.0回	2.4回	1.5回
休日率	40.7%	46.4%	47.4%	42.6%	37.0%

法人常勤職員がグループホームや短期入所等での稼働状況を職員1人あたりで算出したものである。傾向を正確に把握できるようグループホームおよびサービスセンター職員、新任職員や子育て中のママ職員を除いている。

職員によってばらつきがあるため、あくまで平均であるが、年々回数は減少している。特に女性は夜間支援アルバイトの増加によりその傾向が大きい。なお、当年度は男性の短期入所サービス利用が例年より多く、グループホームでの稼働は減少しているものの、トータルでは前年比横ばい。

また、男女ともに休日の稼働割合は高い。